

第2章

がんを取り巻く状況とこれまでの 取組の評価

1. 八王子市のがんを取り巻く状況
2. 第1期がん対策推進計画の評価

第2章 がんを取り巻く状況とこれまでの取組の評価

1. 八王子市のがんを取り巻く状況

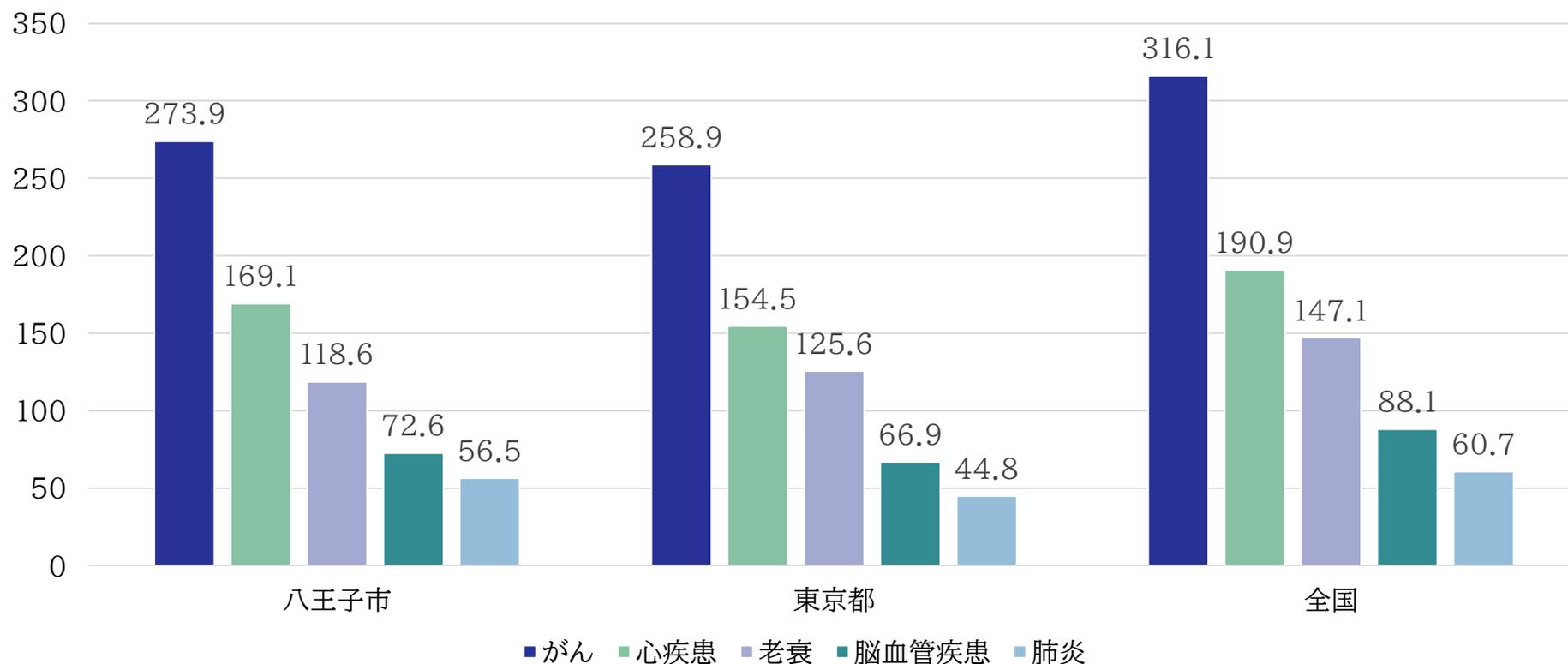
1. 八王子市のがんを取り巻く状況

2. 第1期がん対策推進計画の評価

死因順位・死因別死亡率(八王子市・東京都・全国)

令和4年(2022年)における本市の死因順位は、東京都・全国と同様、がんが1位で、人口10万人当たり死亡率は273.9人です。

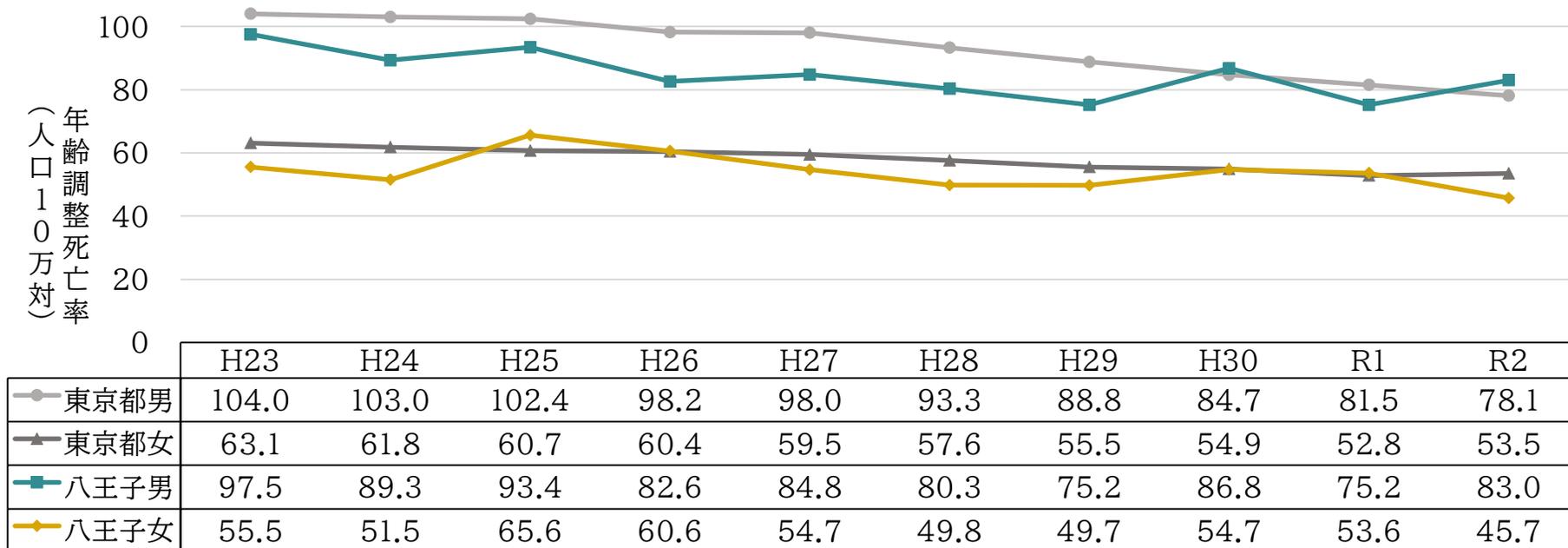
図表2-1-1 八王子市・東京都・全国別 死因順位・死因別死亡率(人口10万対)



がんの年齢調整死亡率*(八王子市・東京都)

東京都におけるがんの75歳未満年齢調整死亡率は、年々減少傾向にあります。一方で、本市における年齢調整死亡率は、女性では平成25年(2013年)以降減少傾向を示すものの、男性では平成26年(2014年)以降横ばい傾向にあります。なお、がん対策の取組が、がん死亡率にどう影響したか(効果に表れたか)は、より長い期間での検証が必要になる点に注意が必要です。

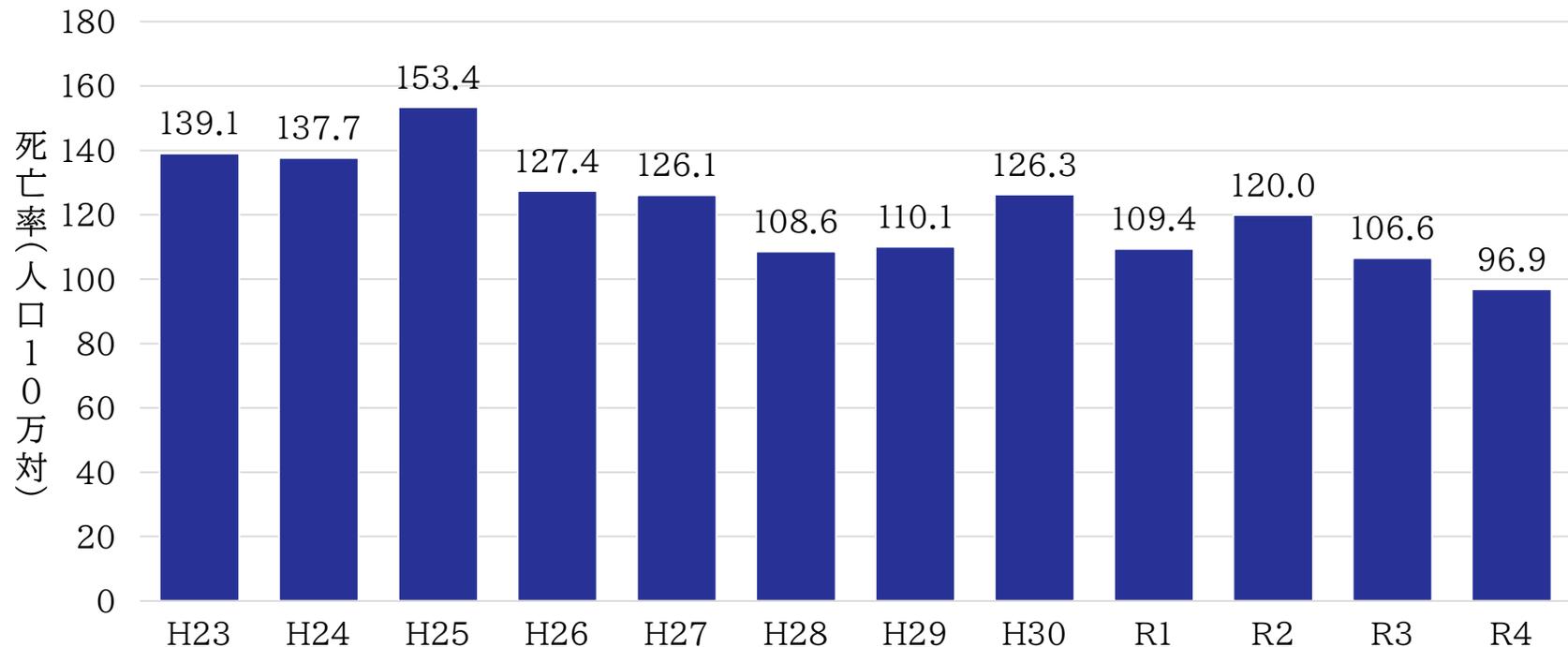
図表2-1-2 八王子市・東京都におけるがんの75歳未満年齢調整死亡率の推移(人口10万対)



働き世代(40～64歳)のがんによる死亡率(八王子市)

働き世代のがんによる死亡率は、平成23年(2011年)以降、減少傾向がみられます。人口10万人あたり、毎年90人超の方が、がんで亡くなっています。

図表2-1-3 働き世代(40～64歳)のがんによる死亡率(人口10万対、平成23年の5歳ごとの人口構成比で補正※1)



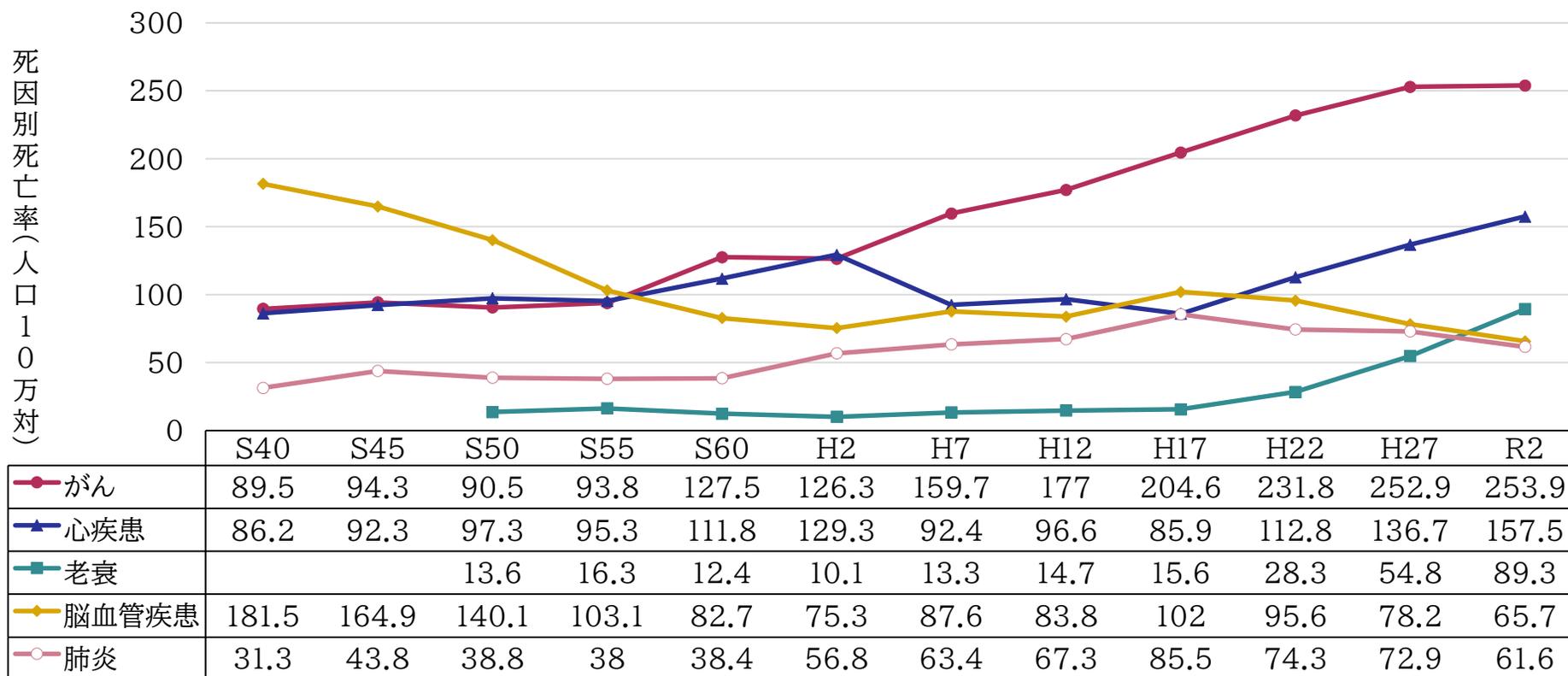
八王子市保健所年報 平成24年度(2012年度)版～令和5年度(2023年度)版第5章統計編(改訂版)から作成

※1 平成24年(2012年)～令和4年(2022年)の死亡率は、年齢(5歳階級)別人口が、平成23年(2011年)と同じであると仮定した場合の値

主要死因の年次別推移(八王子市)

ここ数年の死因順位はがんが1位であり、他の死因に比べ継続して高い死亡率を推移しています。

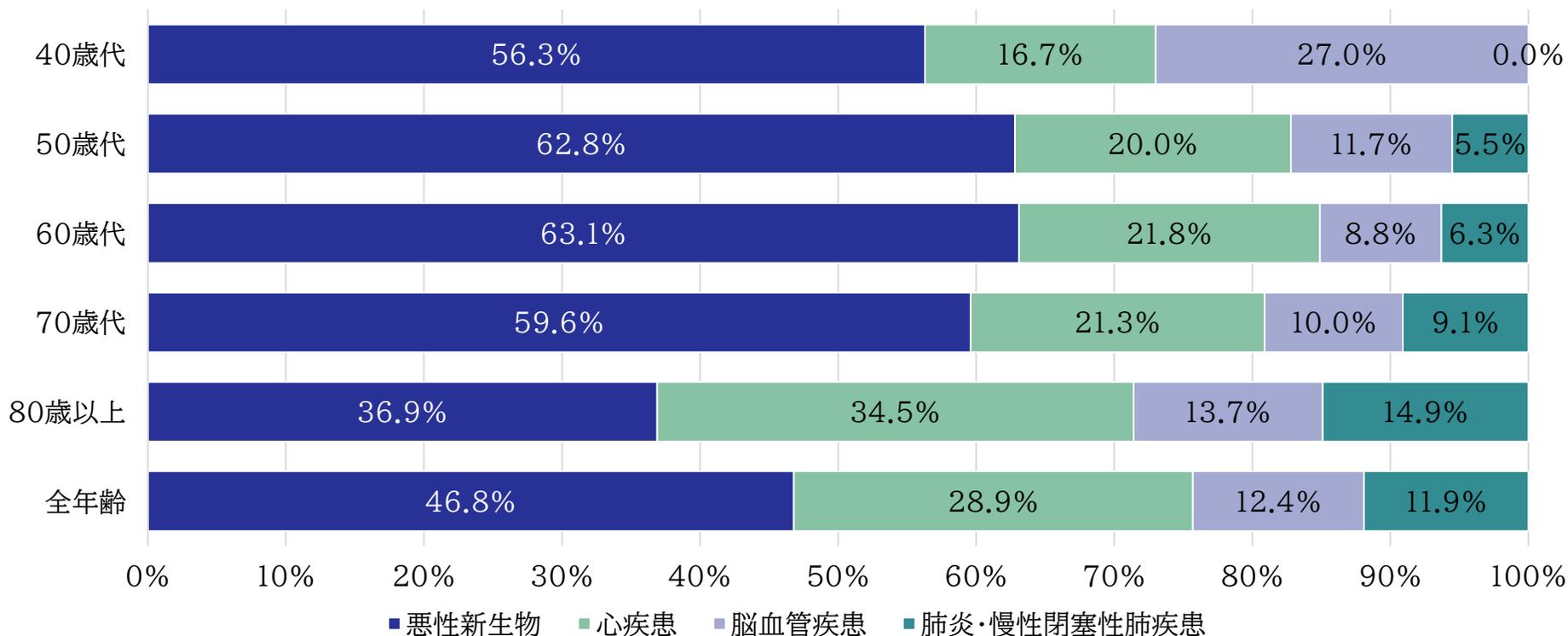
図表2-1-4 主要死因の年次推移(人口10万対)



年代別生活習慣病における四大死因(八王子市)

全ての年代において生活習慣病による四大死因の中でがんの割合が最も高くなっており、その中でも50歳代・60歳代のがんによる死亡は6割を超えています。全年齢においては約半数となる46.8%ががんによる死亡です。

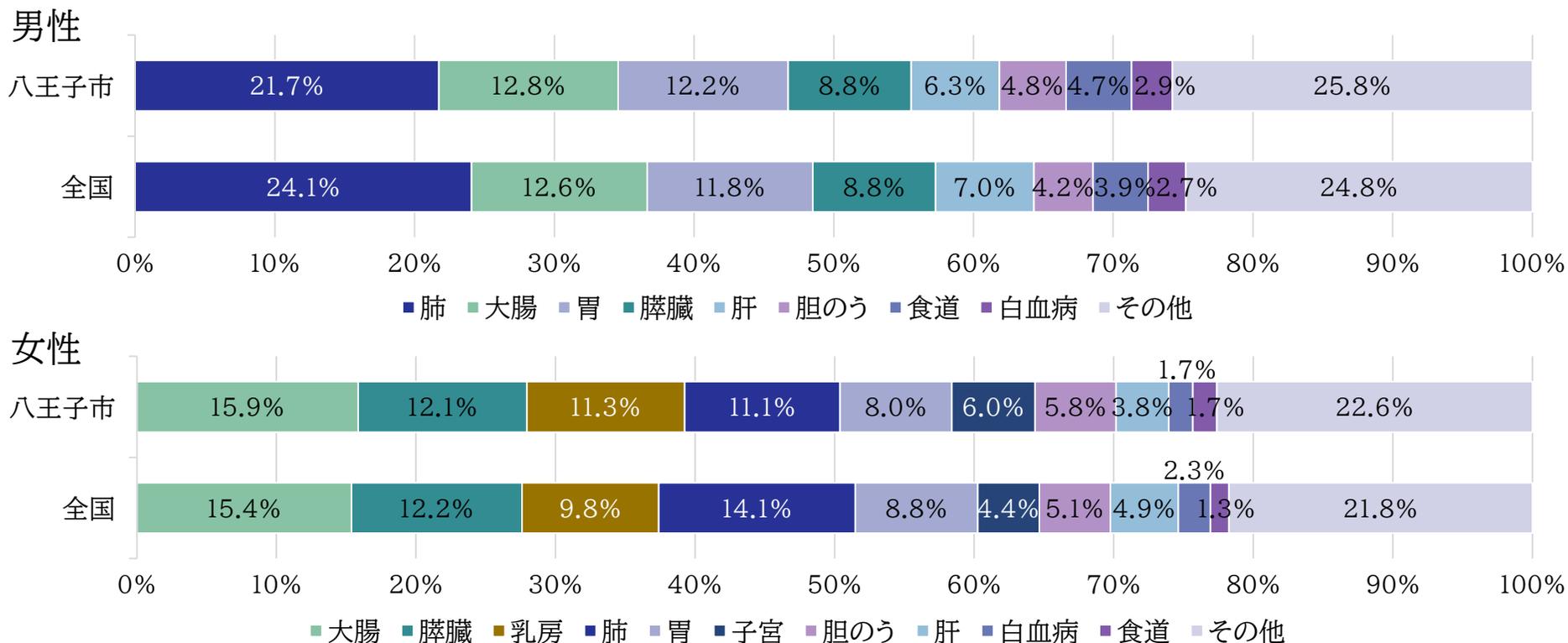
図表2-1-5 年代別生活習慣病による四大死因(令和4年)



悪性新生物の部位別死因割合(八王子市・全国)

がんの部位別の死亡者割合は、男性では肺がんが最も高い一方、女性では大腸がんが最も高く、男女差が見られます。また、本市は全国平均と比較し、肺がんの割合が低くなっています。

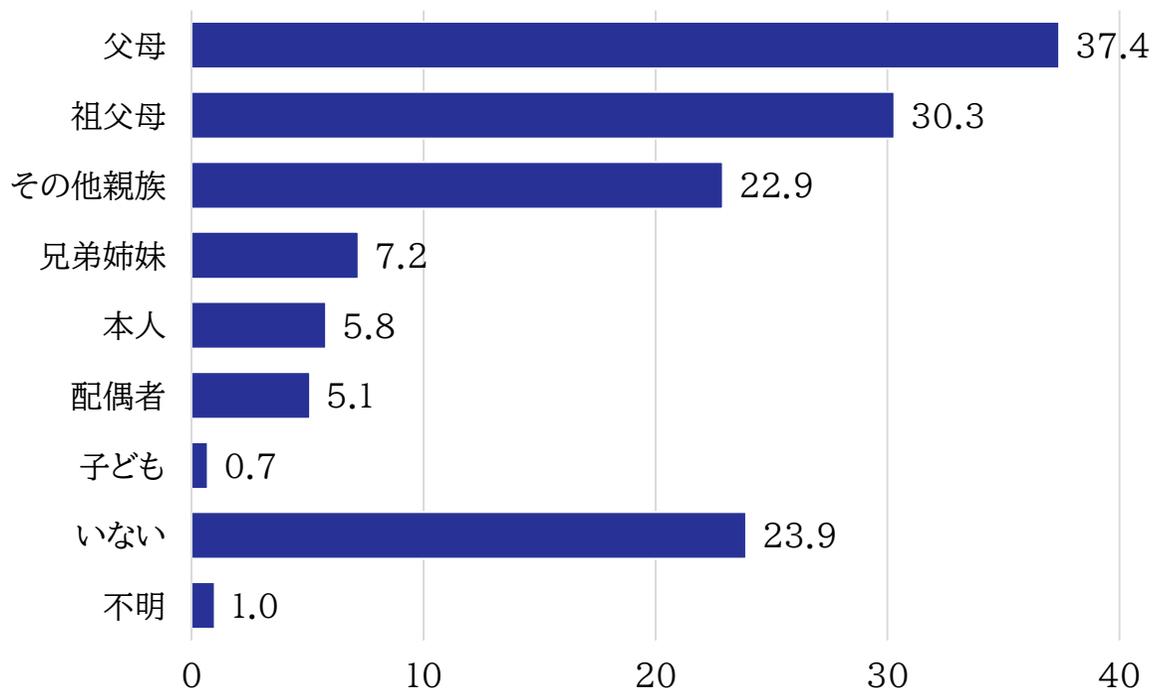
図表2-1-6 悪性新生物の部位別死因割合(令和3年)



親族でがんになった人(市民意識調査)

父母または祖父母ががんになった割合は、ともに30%を超えています。また、親族でがんになった人が「いない」と回答した人が23.9%であり、8割弱の市民にがんになった親族が存在していると解釈できることから、がんが身近な病気として、生活の中に存在している実態が見受けられます。

図表2-1-7 親族でがんになった人(複数回答、単位:%)



がん患者や家族をサポートするために必要な情報(市民意識調査)

市民が考える、がん患者や家族をサポートするために必要な情報については、上位から「医療費や保険、手当等に関する情報」、「がんに関する正しい情報」、「治療から生活までなんでも相談できる窓口」となっています。経年比較をすると、平成28年度(2016年度)に比べ、令和4年度(2022年度)では、「治療から生活までなんでも相談できる窓口」に関する情報の需要は、減少しています。

図表2-1-8 がん患者や家族をサポートするために必要な情報(複数回答、単位:%)

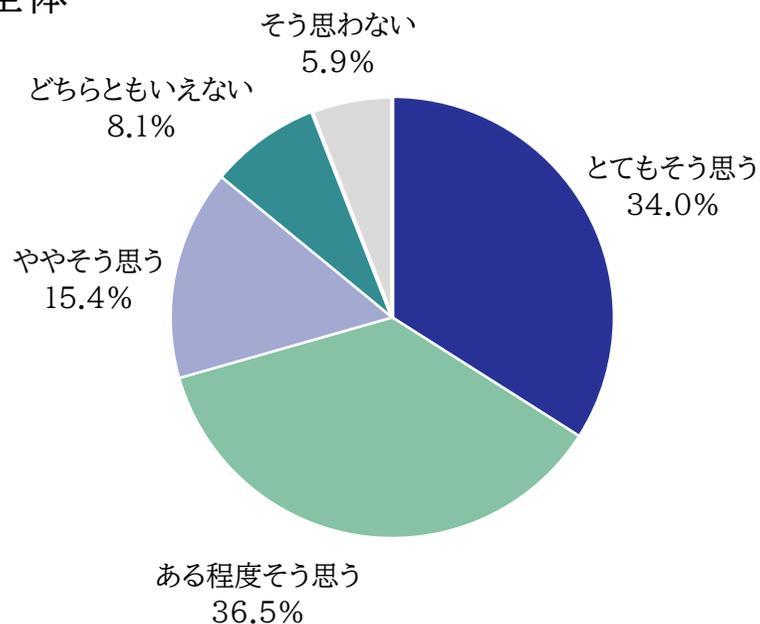
	H28	R4
医療費や保険、手当等に関する情報	67.4	69.8
がんに関する正しい情報	65.4	64.7
治療から生活までなんでも相談できる窓口	59.5	51.5
主治医以外の医師から意見を聞けること(セカンドオピニオン)	53.5	46.4
家族を支える相談、支援窓口	45.1	35.0
就労時間や、勤務場所等職場の支援体制	35.3	34.2
友人や、勤務先の同僚の理解	21.0	22.5
患者や支援団体の情報	15.9	15.1

自分らしい生活を送れているがん患者の割合(全国)

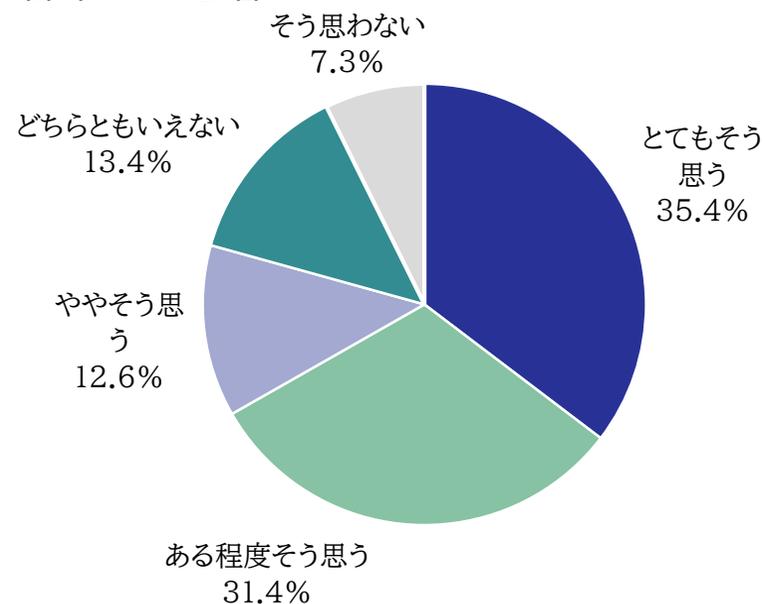
平成30年度(2018年度)実施の患者体験調査*では、自分らしい生活を送れているか否かという質問に対し、「とてもそう思う」、「ある程度そう思う」と回答したがん患者が7割ほど(全体で70.5%、若年がん患者で66.8%)いる一方、自分らしい生活が送れていないと感じる患者が一定数存在します。

図表2-1-9 現在自分らしい生活を送れていると感じる

全体



若年がん患者



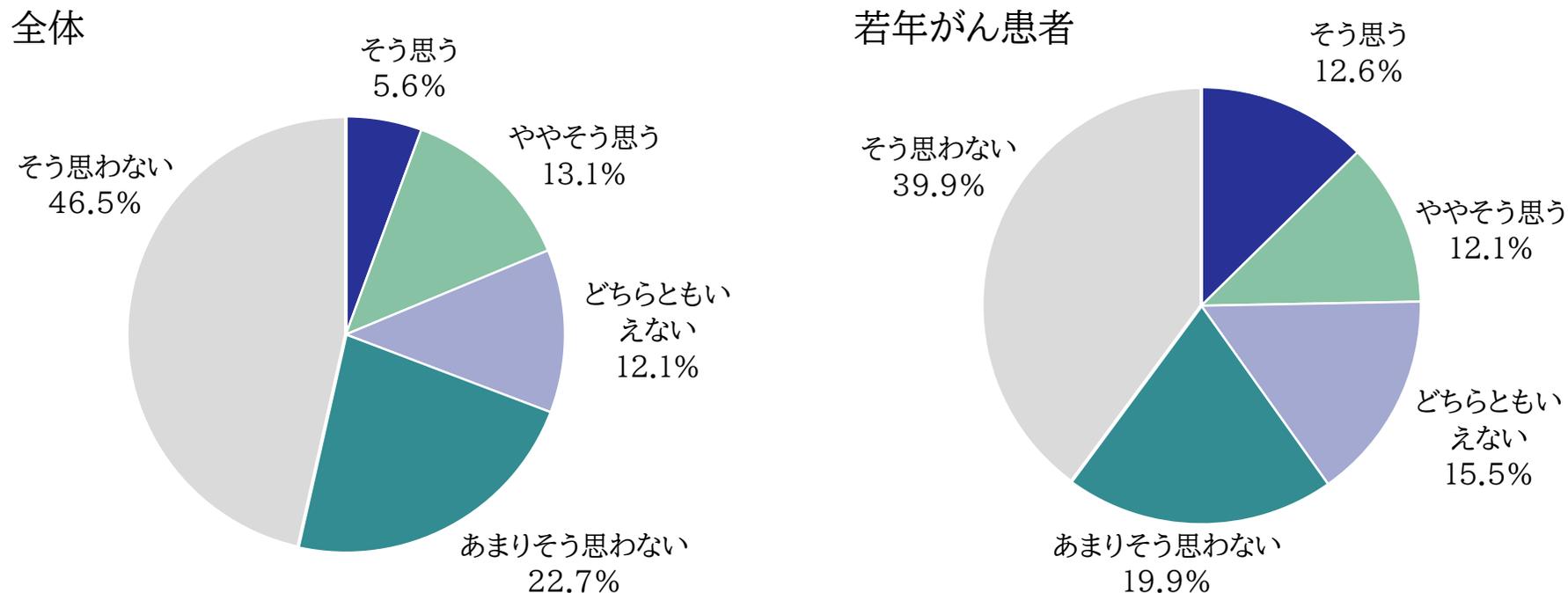
平成30年度(2018年度)実施の患者体験調査から作成

回答者全体である7,080人のうち78.8%(若年がん患者(診断時19歳以上40歳未満)は709人中92.8%)に当たる本人回答に限定して集計された。その他の回答は、がん患者の家族、またはその他の代理人によるものである。

困りごとを抱えているがん患者の割合(全国)

平成30年度(2018年度)実施の患者体験調査*では、心身の苦痛により日常生活を送るうえで困っていることがある(「そう思う」、「ややそう思う」と回答した患者は18.7%です。また、若年がん患者に限ると24.7%が困っていることがあると回答しています。

図表2-1-10 がんやがん治療にともなう身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがある



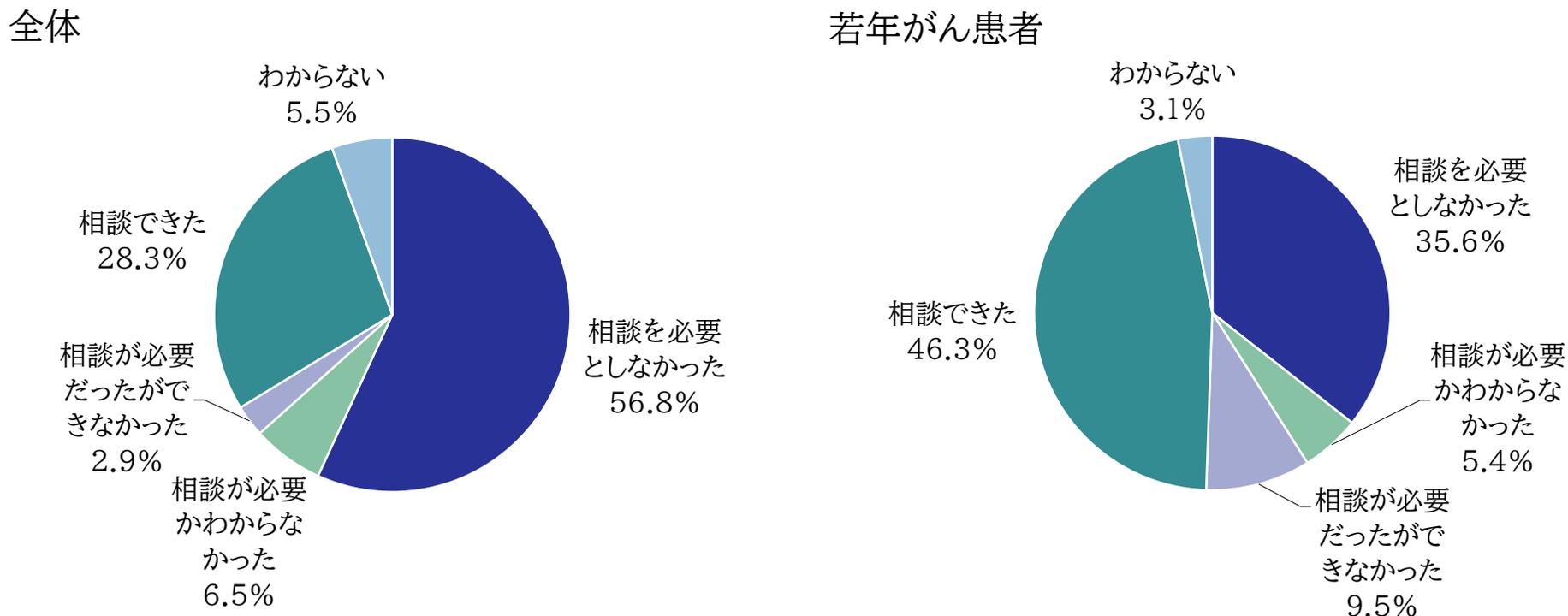
平成30年度(2018年度)実施の患者体験調査から作成

回答者全体である7,080人のうち78.8%(若年がん患者(診断時19歳以上40歳未満)は709人中92.8%)に当たる本人回答に限定して集計された。その他の回答は、がん患者の家族、またはその他の代理人によるものである。

外見に関する悩みを持っていたがん患者の割合(全国)

平成30年度(2018年度)実施の患者体験調査*では、若年がん患者の半数以上となる55.8%が外見に関して「相談できた」または「相談が必要だができなかった」と回答しており、外見に関する何らかの悩みを抱えていたと考えることができます。また、この割合は全体(31.2%)と比べ高くなっています。

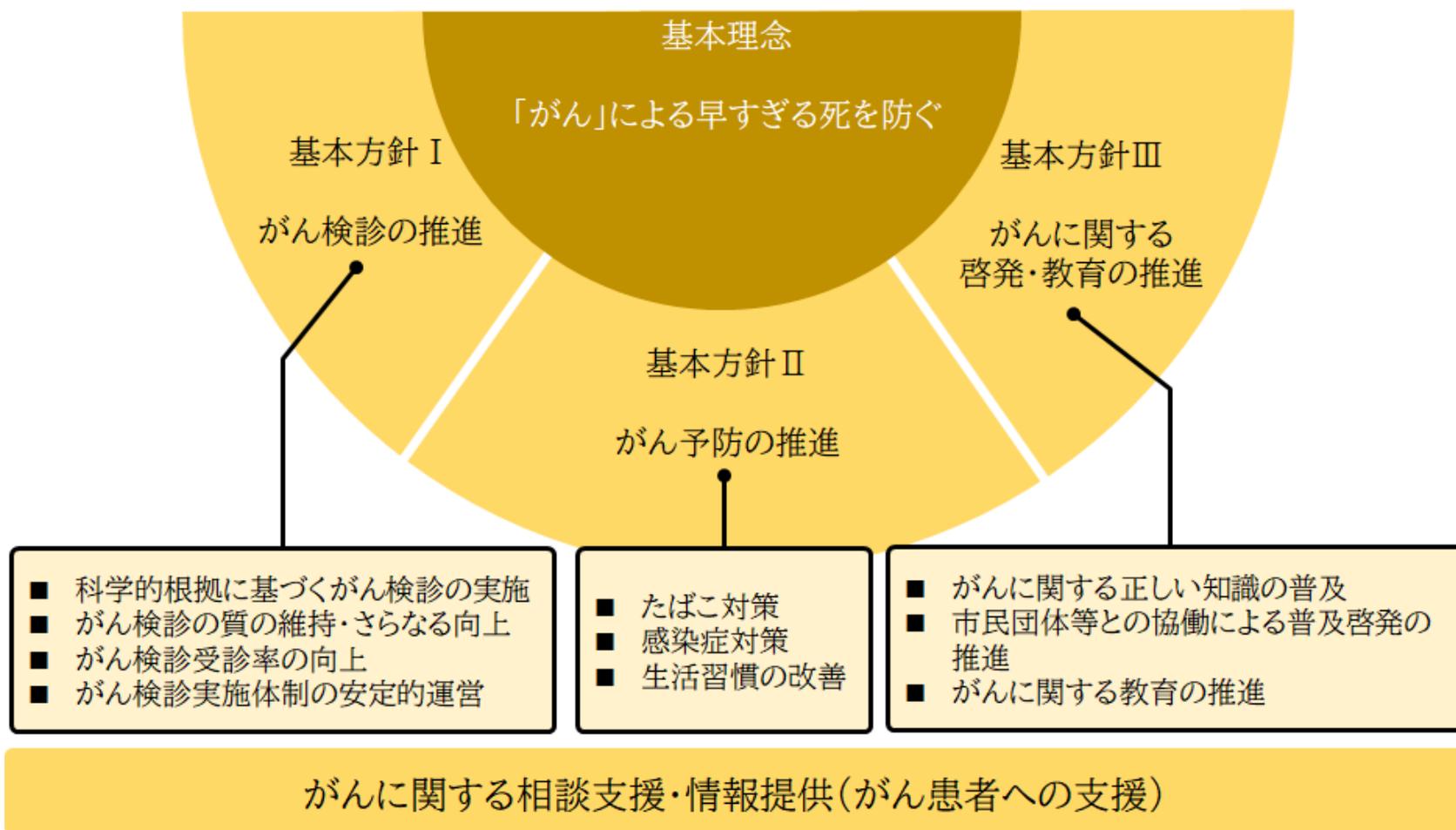
図表2-1-11 がん治療による外見の変化(脱毛や皮膚障害などを含む)に関する悩みを誰かに相談できたか



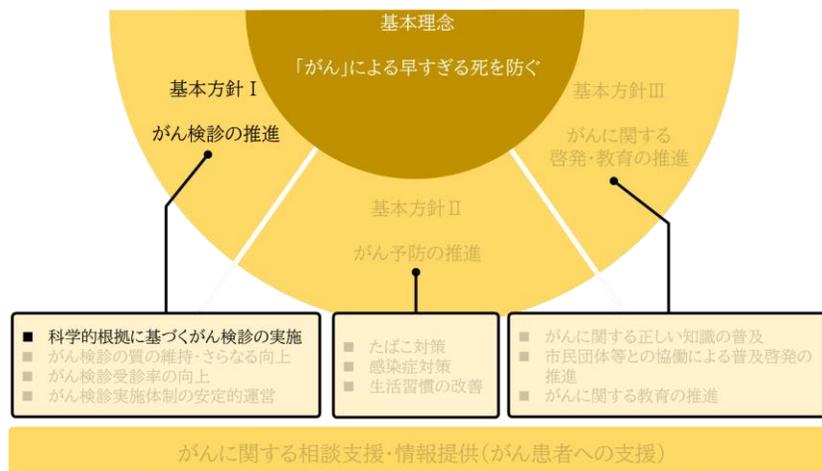
1. 八王子市のがんを取り巻く状況
2. 第1期がん対策推進計画の評価

第1期がん対策推進計画の基本理念・基本方針

第1期計画の基本理念・基本方針は下図のとおりです。次ページ以降、第1期計画で掲げた取組ごとの評価を記載します。



基本方針 I (がん検診の推進)における「科学的根拠に基づくがん検診の実施」の評価



	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.1	指針に沿ったがん検診の実施	実施	P29	継続
No.2	検査検証事業の着実な実施	実施	P30	継続
No.3	胃がん内視鏡検診の導入	実施(完了)	P31	終了
No.4	正しい情報発信	実施	P32	継続

「指針に沿ったがん検診の実施（取組No.1）」の評価

本市では、科学的根拠に基づき、国が指針に示した5つのがん検診を定められた方法で、かつ、定められた対象に対して、実施しました。

また、国の指針にない検診については、検査検証事業と位置付けたもの以外では、実施していません。

図表2-2-1 八王子市のがん検診の実施状況(令和5年度)

	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん
対象者	50歳以上	40歳以上	40歳以上	40歳以上 女性	20歳以上 女性
検査方法	胃内視鏡検査	胸部エックス線検査 喀痰検査※1	便潜血検査	視触診 及び マンモグラフィ*	頸部細胞診
受診間隔	2年に1回	年1回	年1回	2年に1回	年1回 (2年に1回を推奨)
検診実施形態	個別 (二重読影*)	個別 (二重読影)	個別	個別 (二重読影)	個別
委託	八王子市医師会				
受診方法	医療機関に直接申し込み				

※1 必要な方のみの実施。50歳以上で喫煙指数が600以上の方のみ。過去の喫煙者も含む。

「検査検証事業の着実な実施（取組No.2）」の評価

本市では、国の指針に定められていない検診については、科学的根拠の構築を目的に、検査検証事業として実施することとしており、「胃がんリスク検査*検証事業」を行い、また、「子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査*併用の有用性に関する研究」に参加しています。
 研究から得られた成果については、国等のしかるべき機関へフィードバックしていきます。

図表2-2-2 検査検証事業の概要

	胃がんリスク検査検証事業	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究※1
研究目的	胃がんリスクの高い群と低い群によって、胃がん発生率が異なるかどうかを検証する。 胃がんリスク検査の胃がん検診としての効果や不利益の大きさ等を検証する。	細胞診検査とHPV検査の併用の子宮頸がんとしての効果や不利益の大きさ等を検証する。 HPV検査(単独法)の子宮頸がんとしての効果や不利益の大きさ等を検証する。
実施方法	胃がん検診の際、胃エックス線検査だけを実施する群と胃エックス線検査と胃がんリスク検査を併用する群に分けて実施する。 また、検診結果に関連する診療情報等について、追跡調査を実施する。	子宮頸がん検診の際、細胞診だけを実施する群と細胞診とHPV検査を併用する群に分けて実施する。 また、検診結果に関連する診療情報等について、追跡調査を実施する。
研究期間	平成26～令和15年度(2014～2033年度)	平成25～令和7年度(2013～2025年度)
研究主体	八王子市・八王子市医師会・国立がん研究センター	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究班(研究代表者 青木大輔)

※1 日本医療研究開発機構研究費(革新的がん医療実用化研究事業)

「胃がん内視鏡検診の導入（取組No.3）」の評価

本市では、平成30年度(2018年度)に胃がん内視鏡検診を導入しました。検診実施にあたっては、国の指針に定められているとおり、「対策型検診*のための胃内視鏡検診マニュアル」を遵守し、かつ、八王子市医師会の協力を得て、全症例において二重読影*を実施する体制を整備しました。

また、年度ごとに実施医療機関数、対象年齢を拡大していき、令和3年度(2021年度)には、対象者を国の指針に合わせました。さらに、エックス線検診は、内視鏡検査導入以降、毎年度受診者数が減少傾向にあった等の理由から、令和2年度(2020年度)をもって廃止し、限られた財源をより精度の高い内視鏡検診に集中させることにしました。

図表2-2-3 胃がん検診の変遷

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
エックス線検査(集団)	実施日数	109	81	40	17	—
	対象者	40歳以上 (1年に1回)	40歳以上 (1年に1回)	40歳以上 (1年に1回)	50歳以上 (2年に1回)	—
	受診者数	7,555	5,575	3,061	1,310	—
内視鏡検査(個別)	医療機関数	—	20	23	25	26
	対象者	—	50～68歳 の偶数年齢 (2年に1回)	50～74歳 の偶数年齢 (2年に1回)	50～77歳 (2年に1回)	50歳以上 (2年に1回)
	受診者数	—	6,582	7,208	7,257	7,932

「正しい情報発信(取組No.4)」の評価

市民が、がん検診について正しく理解した上で受診できるよう、5月1日号の市広報と一緒に全戸配布している「検診ガイド」の中で、科学的根拠のあるがん検診受診の必要性や検診の利益・不利益等について、情報発信を行いました。その他、市ホームページ、市SNS(Facebook等)、成人健診課からの個別通知等、あらゆる機会を通じて情報発信を行いました。

八王子市各種がん検診

利益・不利益

国が推奨する5つのがん検診には、以下のような**利益(メリット)**、**不利益(デメリット)**があります。これらの低い確率で起こる不利益よりも、がんで亡くなることを防ぐ利益が大きいことが証明されています。

利益の例

- がん検診受診後の早期発見・早期治療による延命効果
- 早期発見により、体に負担の少ない治療で済むこと

不利益の例

- がんが100%見つかるわけではない
- 不必要な治療や検査を受ける
- 検査に伴う偶発症
- 結果がわかるまでの不安

結果の記録・活用

検診精度向上のため、検診結果、受診歴は記録活用されます。また、精密検査の結果は市に報告されます。

推奨年齢

国は**69歳以下**の方に対し、がん検診の受診を推奨しています。市では「がん」による早すぎる死を防ぐを基本理念とした『八王子市がん対策推進計画(平成30年度～令和5年度)』を策定しています。

結果判定

「精密検査が必要」と判定された場合には、**必ず精密検査を受けましょう**。また、「精密検査不要」と判定されても、気になる症状があれば、医療機関を受診してください。

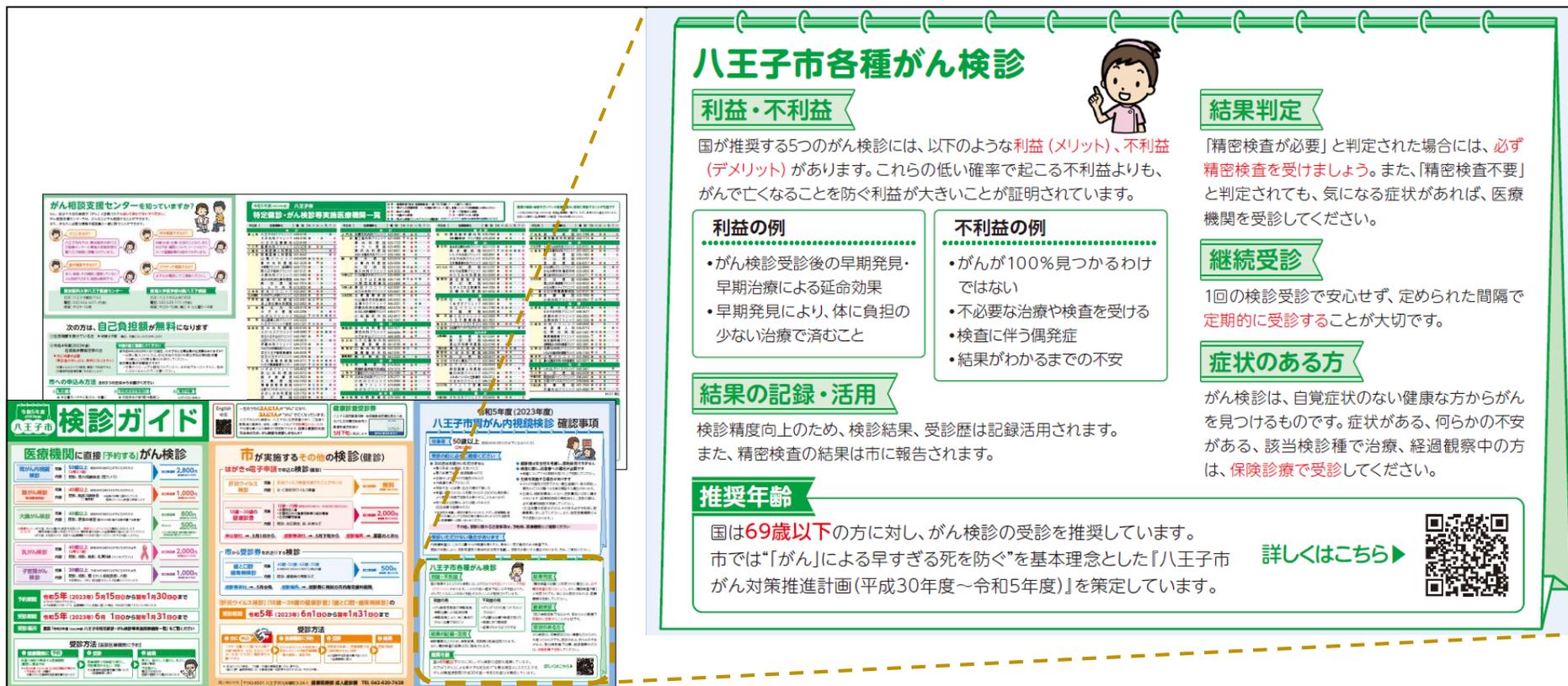
継続受診

1回の検診受診で安心せず、定められた間隔で**定期的**に受診することが大切です。

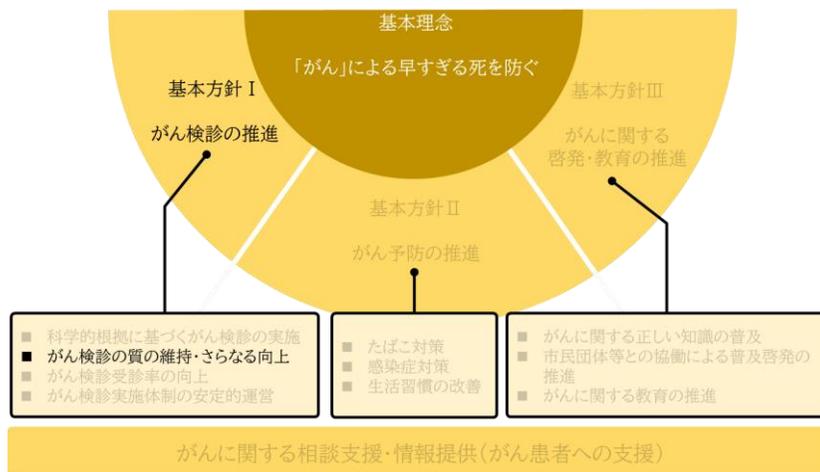
症状のある方

がん検診は、自覚症状のない健康な方からがんを見つけるものです。症状がある、何らかの不安がある、該当検診種で治療、経過観察中の方は、**保険診療で受診**してください。

詳しくはこちら▶



基本方針 I (がん検診の推進)における「がん検診の質の維持・さらなる向上」の評価



	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.5	検診委員会・精度管理委員会の充実	実施	P34	継続
No.6	チェックリストの遵守	実施	P35	継続
No.7	精密検査受診率目標値達成に向けた働きかけの強化	実施	P36～38	継続
No.8	精度管理向上のためのデータ集計・分析・フィードバックの推進	実施	P39	継続

「検診委員会・精度管理委員会の充実（取組No.5）」の評価

胃がん・肺がん・乳がん検診の画像は、八王子市医師会に設置された検診委員会において、全症例を実績・経験豊富な専門医が二重読影*を行いました。また、検診委員会は検診実施医療機関の医師も参加可能であり、専門医と意見交換する中で、市全体の読影技術の向上を図っています。

また、がん検診の事業評価として、市職員、八王子市医師会の医師、国立がん研究センターの有識者を交えた、がん検診専門懇談会を毎年度末に開催しました。懇談会で抽出された課題・改善点等については、翌年度以降の検診実施に役立てています。



図表2-2-5 八王子市医師会での二重読影（胃がん内視鏡）の様子



図表2-2-6 がん検診専門懇談会の様子

「チェックリストの遵守（取組No.6）」の評価

がん検診の質を担保するチェックリストを遵守すべく、八王子市医師会と調整・協議を行い、体制整備に努めました。遵守率は、東京都・多摩地域の平均と比較しても、高い水準を保っています。

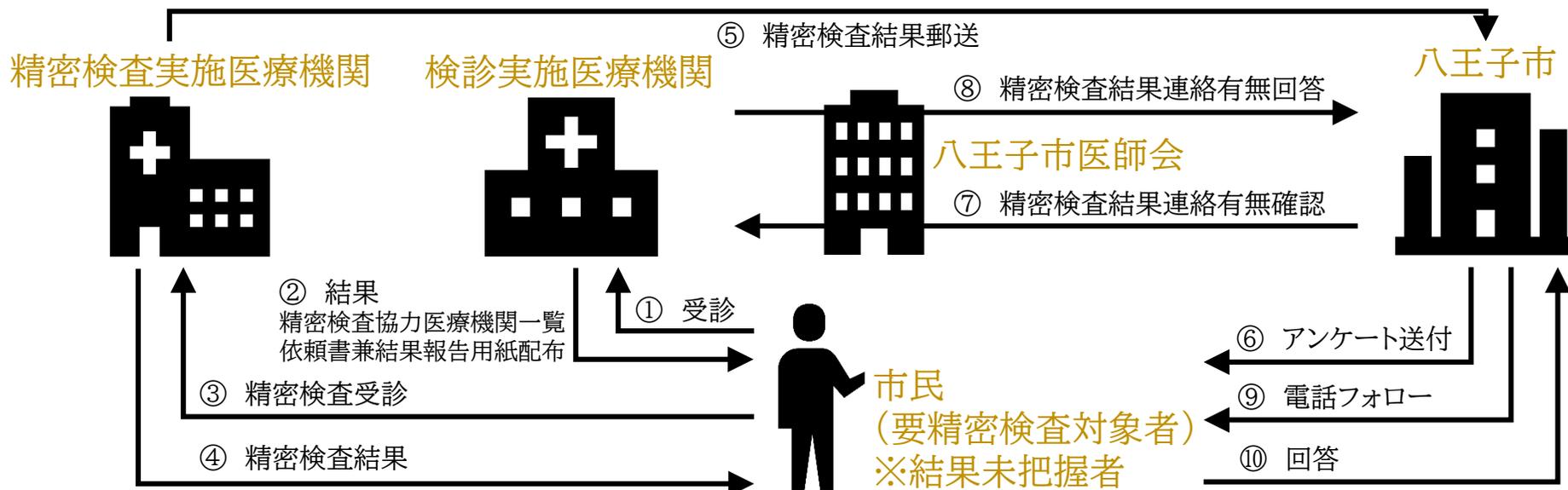
図表2-2-7 事業評価のための、個別検診におけるチェックリスト遵守率(令和4年度)

	胃がん (内視鏡)	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん
八王子市	90.4%	92.2%	92.3%	94.5%	94.5%
東京都	81.9%	83.9%	82.3%	84.0%	81.8%
多摩地域	78.2%	85.7%	81.8%	84.9%	82.1%

「精密検査受診率目標値達成に向けた働きかけの強化（取組No.7）」の評価 ①

要精密検査者に対しては、検診実施医療機関から、複写式の「精密検査依頼書」兼「精密検査結果報告書」が渡され、精密検査の結果を市・八王子市医師会・医療機関が把握できる仕組みを整えています。また、要精密検査者のうち、精密検査結果報告書の戻りが無い未把握者に対しては、本人へのアンケートや検診機関へ精密検査受診の有無を確認しています。それでも、把握できなかった方については、本人へ電話確認を行うことで、結果把握及び未受診者の精密検査受診へと結びつけています。その結果、胃がん・肺がん・乳がん・子宮頸がん検診の精密検査受診率は、国の目標値90%を継続して達成しました。大腸がん検診の精密検査受診率も上昇傾向にあり、直近の令和3年度(2021年度)は86%を達成しています。(図表2-2-9、2-2-10参照)

図表2-2-8 精密検査結果を把握する仕組み



「精密検査受診率目標値達成に向けた働きかけの強化（取組No.7）」の評価 ②

図表2-2-9 八王子市におけるがん検診の精度管理状況(令和3年度)

		胃がん検診 (内視鏡)	肺がん検診	大腸がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診
①受診率 がん検診を受けた者	目標値	—	40.0%		50.0%	
	八王子市	10.6%	12.7%	26.0%	19.5%	18.5%
②要精密検査率 がん検診を受けた者のうち、要精密検査となった者	許容値	—	3.0%以下	7.0%以下	1.4%以下	11.0%以下
	八王子市	5.1%	0.8%	5.4%	2.2%	3.5%
③精密検査受診率 要精密検査のうち、精密検査を受診した者	目標値	—	90.0%以上			
	許容値	—	70.0%以上			80.0%以上
	八王子市	100%	96.2%	86.1%	97.1%	99.0%
④精密検査未受診率 要精密検査のうち、精密検査を受診しなかった者	目標値	—	5.0%以下			
	許容値	—	20.0%以下			10.0%以下
	八王子市	0.0%	2.4%	11.1%	1.9%	0.5%
⑤精密検査未受診・未把握率 要精密検査のうち、精密検査を受診しなかった、または受診したかどうか不明である者	目標値	—	10.0%以下			
	許容値	—	20.0%以下	30.0%以下		20.0%以下
	八王子市	0.0%	3.8%	13.9%	2.9%	1.0%
⑥陽性反応的中度 要精密検査のうち、実際にがんであった者	許容値	—	1.3%以上	1.9%以上	4.0%以上	2.5%以上
	八王子市	6.9%	10.0%	5.0%	0.3%	11.0%
⑦がん発見率 検診受診者のうち、実際にがんであった者	許容値	—	0.03%以上	0.13%以上	0.05%以上	0.23%以上
	八王子市	0.35%	0.08%	0.27%	0.01%	0.38%

目標値(全国上位10%)クリア項目



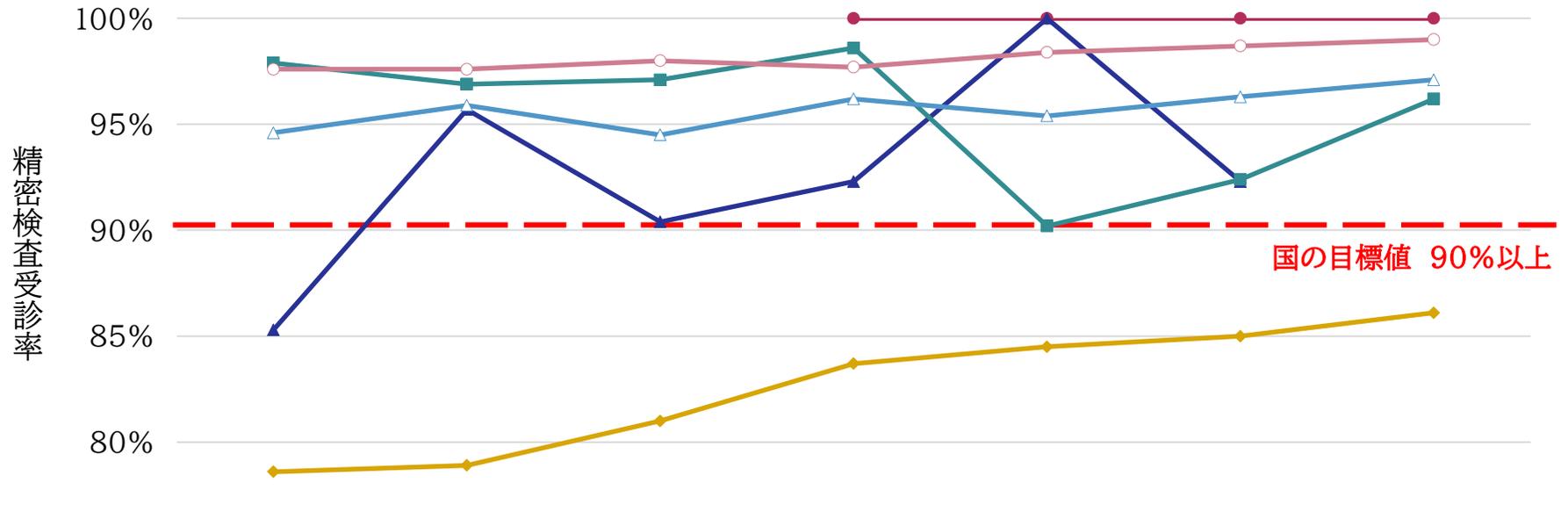
許容値(全国上位70%)クリア項目



- ◆ 胃がんX線検診は令和2年度(2020年度)をもって廃止。
- ◆ 大腸がん検診を除き、『地域保健・健康増進事業報告*(令和3年度(2021年度)分)』による。令和元年度(2019年度)『地域保健・健康増進事業報告』から、大腸がんの精密検査においてCT検査は不適切な検査と明記されているが、これまでの実績値と整合性を図るためにCT検査を加えた精密検査受診率とする。

「精密検査受診率目標値達成に向けた働きかけの強化（取組No.7）」の評価 ③

図表2-2-10 八王子市におけるがん検診の精密検査受診率の推移



	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
● 胃がん内視鏡				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
▲ 胃がんX線	85.3%	95.7%	90.4%	92.3%	100.0%	92.3%	
■ 肺がん	97.9%	96.9%	97.1%	98.6%	90.2%	92.4%	96.2%
◆ 大腸がん	78.6%	78.9%	81.0%	83.7%	84.5%	85.0%	86.1%
○ 乳がん	97.6%	97.6%	98.0%	97.7%	98.4%	98.7%	99.0%
△ 子宮頸がん	94.6%	95.9%	94.5%	96.2%	95.4%	96.3%	97.1%

「精度管理向上のためのデータ集計・分析・フィードバックの推進（取組No.8）」の評価

精度管理指標データの分析結果については、毎年度、医療機関名を匿名化したうえで、検診実施医療機関にもフィードバックし、自院の客観的評価、さらに、PDCAサイクル*を促進させることで、精度管理の向上につなげました。

図表2-2-11 医療機関別精度管理状況のフィードバック例【肺がん検診、令和5年6月21日時点の集計結果】

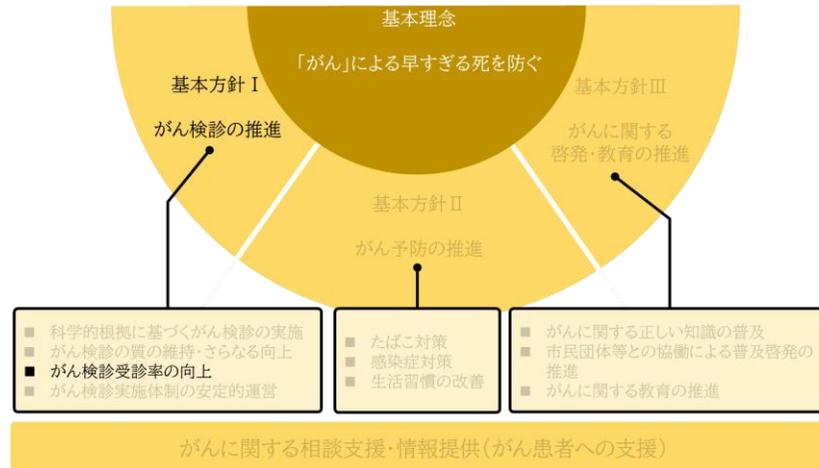
受診者	要精検者	要精検率	精検受診率	受診者	要精検者	要精検率	精検受診率	受診者	要精検者	要精検率	精検受診率
23,335	198	0.8%	92.9%	25,057	211	0.8%	96.2%	25,139	216	0.9%	95.8%
がん 発見数	陽性反応 的中度	がん 発見率		がん 発見数	陽性反応 的中度	がん 発見率		がん 発見数	陽性反応 的中度	がん 発見率	
18	9.1%	0.08%		21	10.0%	0.08%		13	6.0%	0.05%	

番号	令和2年度（2020年度）				令和3年度（2021年度）				令和4年度（2022年度）			
	受診者	要精検者	要精検率	精検受診率	受診者	要精検者	要精検率	精検受診率	受診者	要精検者	要精検率	精検受診率
98	2,164	16	0.7%	● 100.0%	2,575	27	1.0%	● 96.3%	2,776	9	0.3%	● 88.9%
41	1,045	3	0.3%	● 100.0%	1,106	5	0.5%	● 100.0%	1,217	5	0.4%	● 100.0%
83	789	7	0.9%	● 100.0%	982	8	0.8%	● 100.0%	1,101	7	0.6%	● 100.0%
69	530	4	0.8%	● 100.0%	752	5	0.7%	● 100.0%	712	6	0.8%	● 100.0%
16									637	8	1.3%	● 75.0%
7	617	9	1.5%	● 88.9%	620	7	1.1%	● 100.0%	607	7	1.2%	● 100.0%
26	443	2	0.5%	● 50.0%	500	5	1.0%	● 100.0%	509	5	1.0%	● 100.0%
102	465	2	0.4%	● 50.0%	491	6	1.2%	● 100.0%	467	2	0.4%	● 100.0%
127	560	1	0.2%	● 100.0%	517	4	0.8%	● 100.0%	453	0	0.0%	

- 90%以上
- 70%以上
90%未満
- 70%未満

39	4	0	0.0%	1	0	0.0%						
156	24	0	0.0%									
123	8	0	0.0%									
137	7	0	0.0%									
135	4	0	0.0%									
合計	23,335	198	0.8%	● 92.9%	25,057	211	0.8%	● 96.2%	25,139	216	0.9%	● 95.8%

基本方針 I (がん検診の推進)における「がん検診受診率の向上」の評価

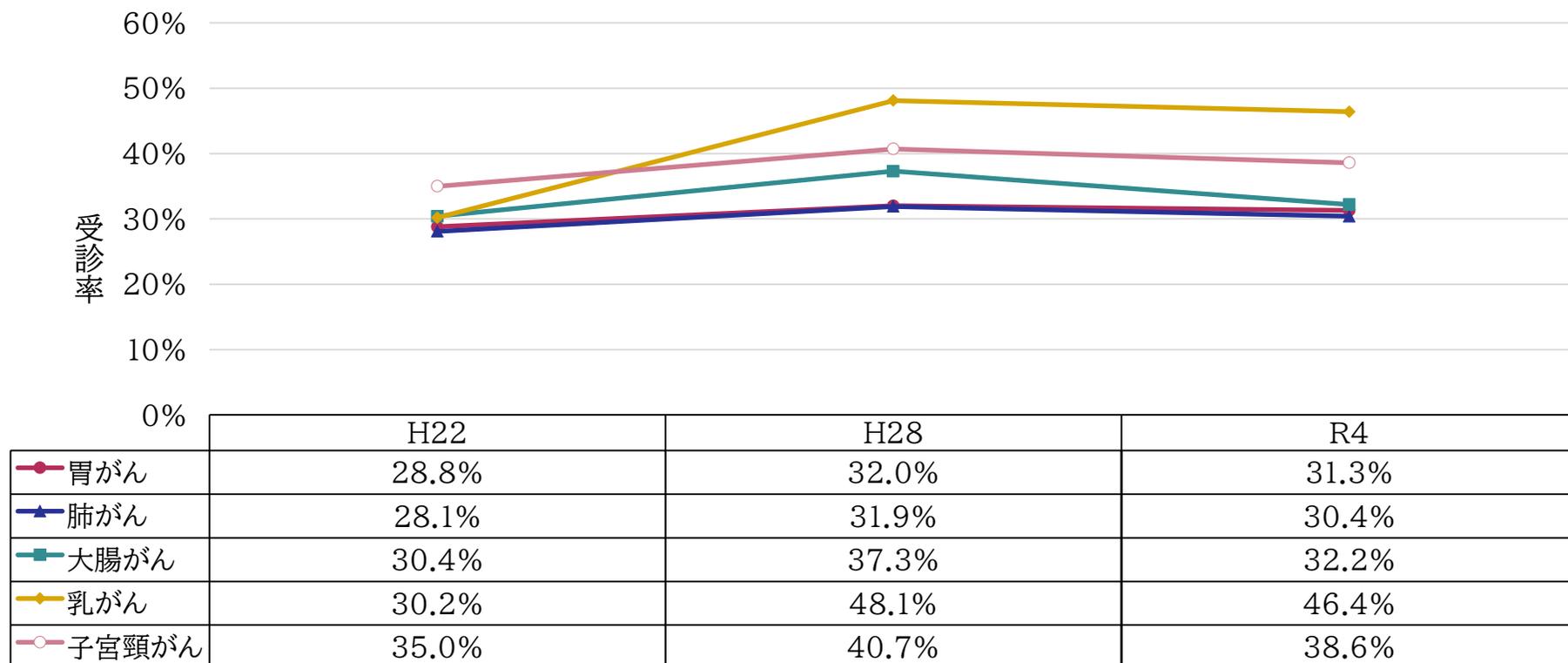


	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.9	無料クーポン券事業の実施	実施	P43~44	継続
No.10	継続受診を促す勧奨・再勧奨	実施	P45~48	継続
No.11	新規受診者の獲得	実施	P49	継続
No.12	健診との同時実施	実施	P50	継続
No.13	成果報酬型官民連携モデルの効果検証	実施	P51	継続
No.14	かかりつけ医からの働きかけの実施	実施	P52	継続

がん検診受診率の向上 全般の評価 ①

市民意識調査結果における69歳以下のがん検診受診率の推移です。平成28年度(2016年度)の調査と令和4年度(2022年度)の調査を比較すると、すべてのがん種で受診率が減少していますが、これは、新型コロナウイルス感染症による受診控えが影響していることが考えられます。

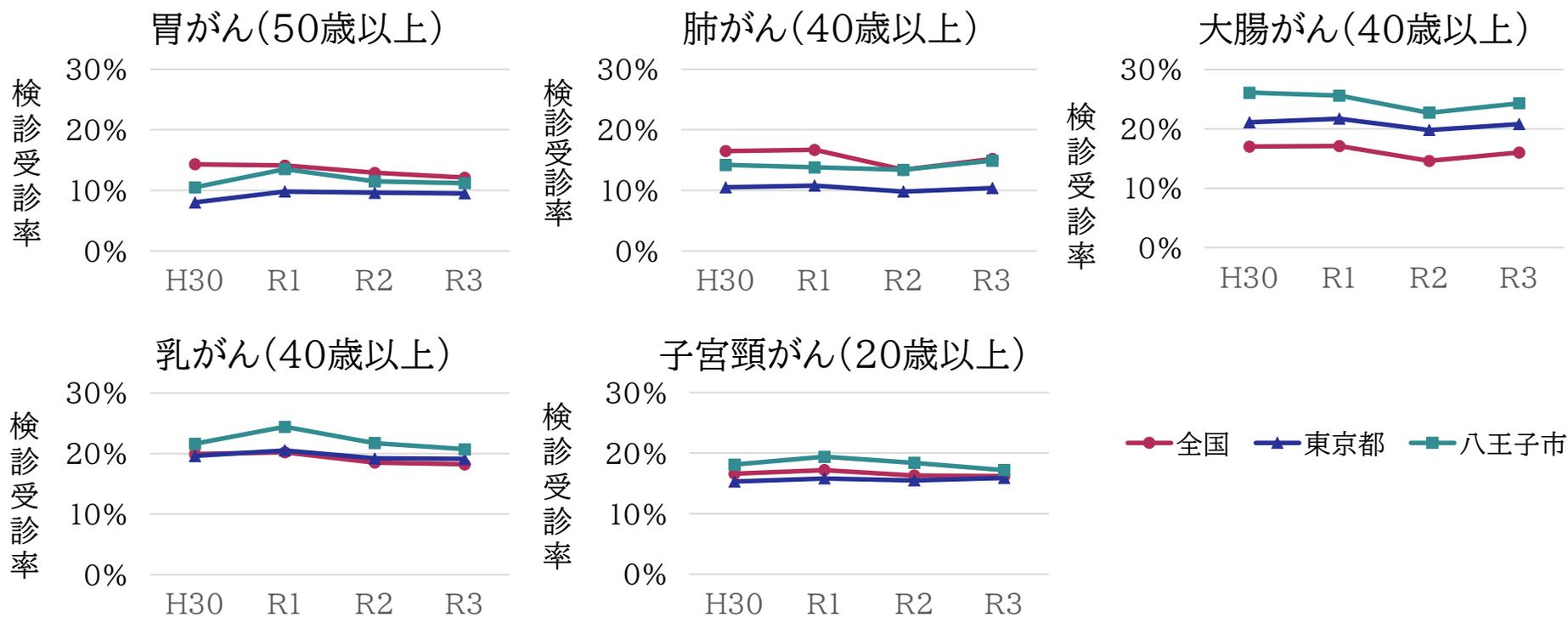
図表2-2-12 八王子市における69歳以下検診受診率の推移(市民意識調査)



がん検診受診率の向上 全般の評価 ②

地域保健・健康増進事業報告*における、国民健康保険*被保険者69歳以下のがん検診受診率の推移(全国・東京都・八王子市)です。本市は令和3年度(2021年度)時点で、全てのがん検診において、東京都の受診率を上回っています。また平成30年度(2018年度)から令和3年度(2021年度)まで継続的に、大腸がん・乳がん・子宮頸がん検診において、全国の受診率を上回っています。

図表2-2-13 全国、東京都、八王子市における国民健康保険被保険者の69歳以下検診受診率の推移(地域保健・健康増進事業報告)



「無料クーポン券事業の実施（取組No.9）」の評価 ①

国では、がん検診受診のきっかけづくりを目的として、20歳※¹の女性に子宮頸がん検診、40歳※¹の女性に乳がん検診無料クーポン券の送付を働きかけています。本市では、独自の取組として、がん種・対象年齢を拡大して、無料クーポン券を送付しました。

図表2-2-14 がん検診無料クーポン券の対象者（令和5年度）

年齢	男女		女性のみ	
	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん
20歳				○ 国事業
30歳				○
40歳	○	○	○ 国事業	○
50歳	○	○	○	
60歳	○	○	○	



図表2-2-15 無料クーポン券の例

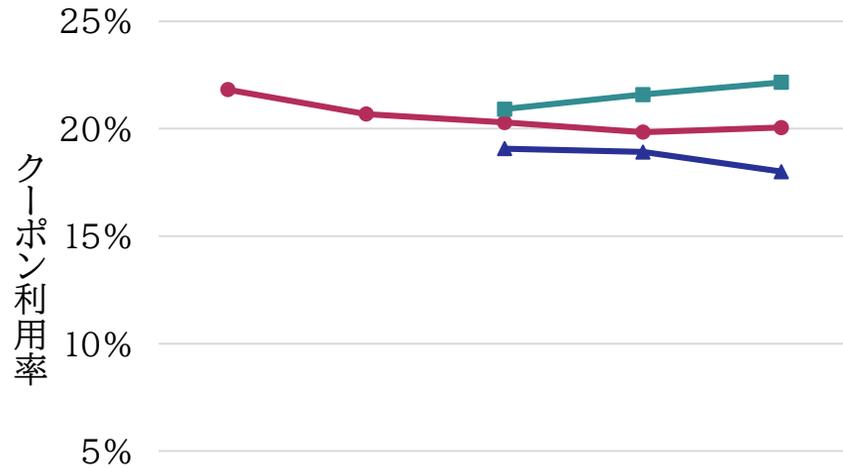
図表2-2-16 無料クーポン券対象者への再勧奨通知の例

※1 当該年度、4月1日時点の年齢

「無料クーポン券事業の実施（取組No.9）」の評価 ②

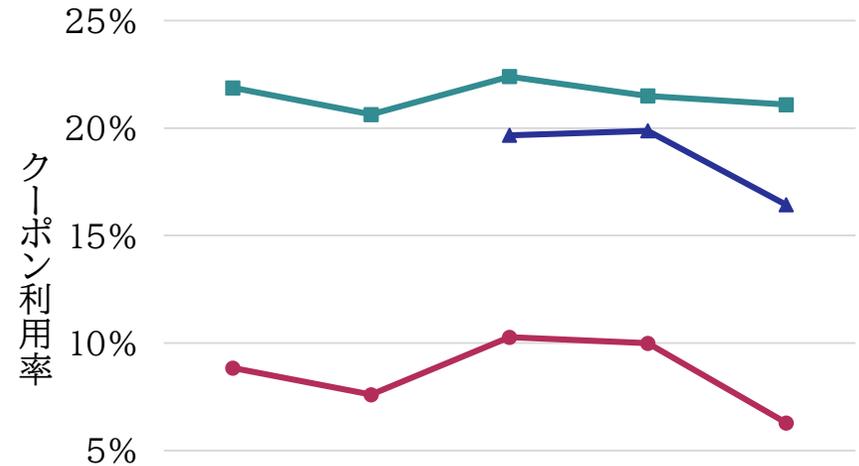
無料クーポン券の利用率は、乳がん検診においてはどの年齢も20%前後で推移していますが、子宮頸がん検診においては20歳の利用率が極端に低くなっています。

図表2-2-17 乳がん検診無料クーポン券利用率



	H30	R1	R2	R3	R4
● 40歳	21.8%	20.7%	20.3%	19.8%	20.1%
▲ 50歳	※	※	19.1%	18.9%	18.0%
■ 60歳	※	※	20.9%	21.6%	22.2%

図表2-2-18 子宮頸がん検診無料クーポン券利用率



	H30	R1	R2	R3	R4
● 20歳	8.8%	7.6%	10.3%	10.0%	6.3%
▲ 30歳	※	※	19.7%	19.9%	16.4%
■ 40歳	21.9%	20.6%	22.4%	21.5%	21.1%

※…対象者の条件が他の年度と異なり、正確な比較ができないため、クーポン利用率を非掲載とした。

「継続受診を促す勧奨・再勧奨（取組No.10）」の評価 ②

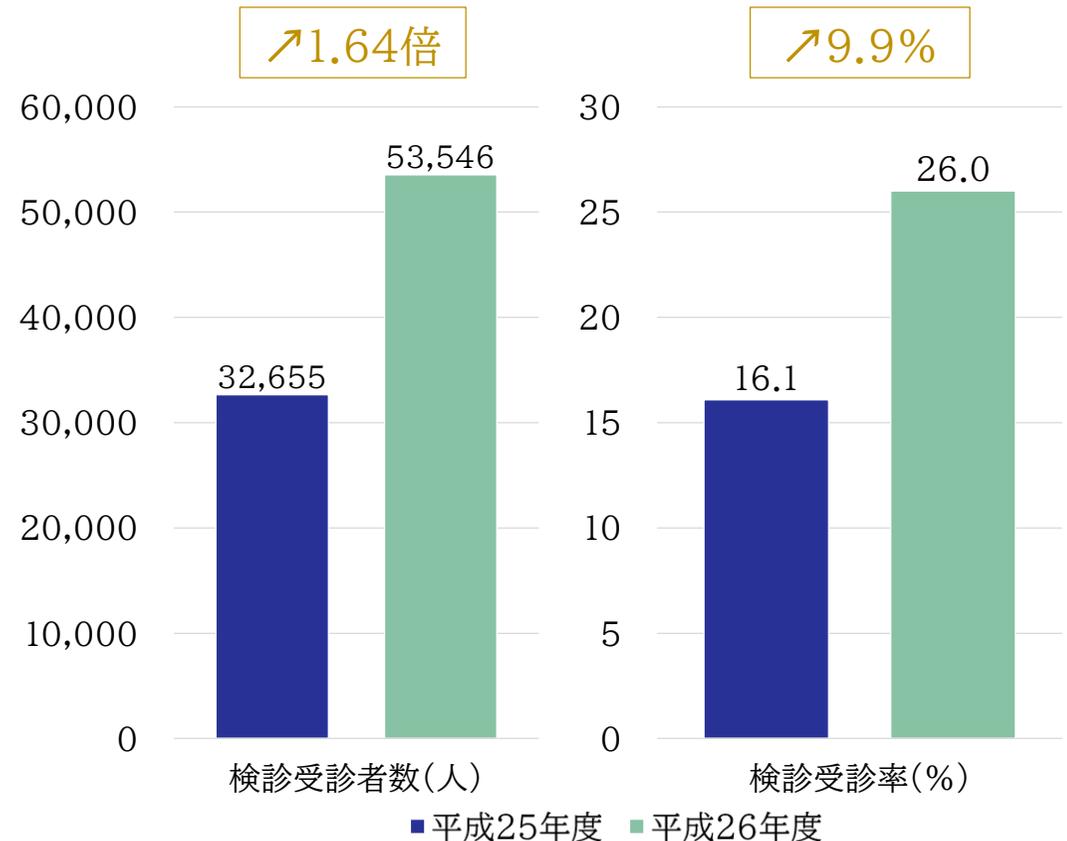
大腸がん検査キットの事前送付を平成26年度(2014年)から実施しています。併せて、健康診査と大腸がん検診を同日に受診した場合、大腸がん検診の自己負担額を割引する取組も行いました。その結果、実施前と比べて、検診受診者数、受診率が増加しました。



図表2-2-21 大腸がん検査キット

- 大腸がん検査キットの事前送付
「前年度大腸がん検診受診者」かつ
「検診結果が“異常なし”の方」へ送付
- 健康診査と大腸がん検診のセット受診
自己負担額を割引

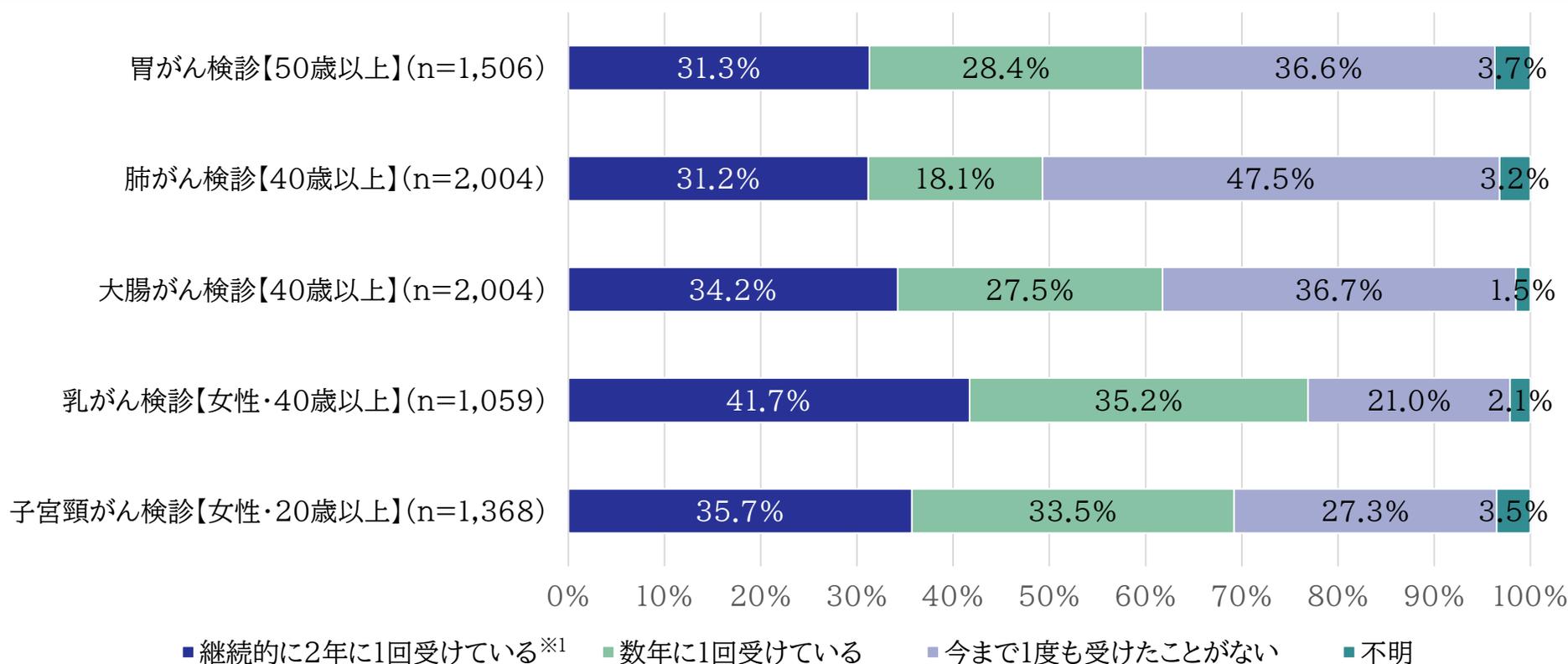
図表2-2-22 大腸がん検診の受診者数、受診率の変化



「継続受診を促す勧奨・再勧奨（取組No.10）」の評価 ③

市民意識調査結果から、いずれのがん種においても、継続的に受診している方が3割以上いる一方、継続受診に至っていない方が一定数いたことが分かります。

図表2-2-23 がん検診の継続受診状況



グラフは、令和4年度(2022年度)市民意識調査から作成

※1 肺がん、大腸がん検診は、「継続的に1年に1回受けている」回答者割合を表示

「継続受診を促す勧奨・再勧奨（取組No.10）」の評価 ④

市民意識調査結果から、市からのがん検診の案内・情報をもとに、検診を受診している市民が多いことがわかります。なお、15.7%の回答者が「気になる症状があったから」を選択していますが、気になる症状がある場合はがん検診ではなく医療機関で保険診療を受けることが適切であり、がん検診に関する正しい知識の普及啓発が必要です。

図表2-2-24 大腸がん検診継続受診者のがん検診を受けた理由(国民健康保険*加入者)

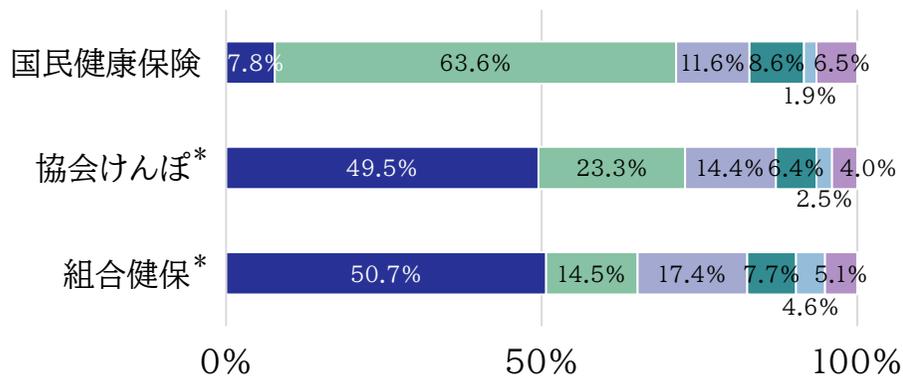
がん検診を受けた理由(選択肢)	割合(n=548, 複数回答可)
区市町村の検診内容にあったから	45.3%
年齢的に検診の対象だったから	42.9%
検診のお知らせが来たから	33.6%
かかりつけ医で受診できたから	17.2%
費用が安いから	17.0%
気になる症状があったから	15.7%
職場の検診内容にあったから	12.0%
医師から受診を勧められたから	9.5%
受けることが当たり前だから	8.6%
家族・友人などにがんが見つかったから	5.5%
自宅や職場の近くで受診できたから	5.1%
家族・友人などに受診を勧められたから	4.7%
家族・友人などががん検診を受診しているから	3.3%
勤務時間中に受けられたから	2.0%
その他	2.7%

「新規受診者の獲得（取組No.11）」の評価

検診ガイドの全戸配布やがん検診無料クーポン券の送付等は、新規受診者を獲得するのに、一定の効果があります。一方で、国民健康保険*加入者については、市民意識調査の結果からも、市のがん検診以外の受診機会がない方の割合が多いことがわかっています。

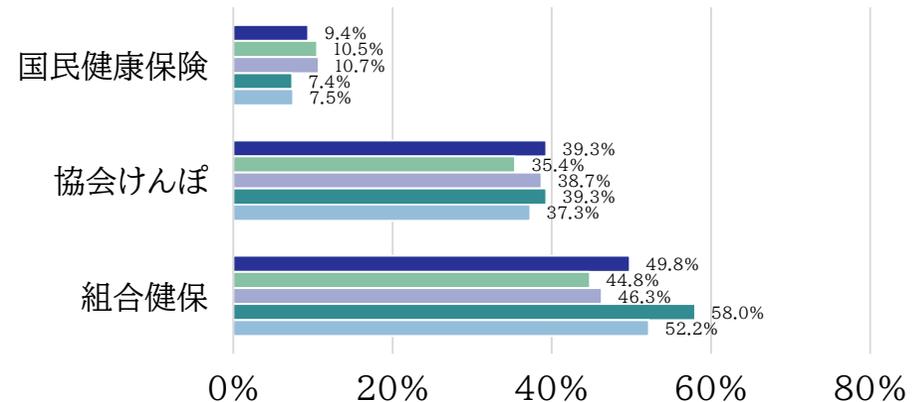
本市では、第1期計画取組No.10の評価①(P45)で示したような、ナッジ理論*等を活用した勧奨通知を国民健康保険新規加入者に対しても送付し、がん検診の受診を促しました。

図表2-2-25 大腸がん検診を受診した場所



- 職場の検診で受けた
- 市区町村で実施する検診で受けた
- 個人的に検診を受けた(全額自費での人間ドック等)
- 症状を感じて病院に行ったとき、診療の中で検査を受けた
- その他
- 不明

図表2-2-26 市のがん検診以外に受診機会がある人の割合



- 胃がん検診【50歳以上】
- 大腸がん検診【40歳以上】
- 子宮頸がん検診【女性・20歳以上】
- 肺がん検診【40歳以上】
- 乳がん検診【女性・40歳以上】

令和4年度(2022年度)八王子市市民意識調査結果から作成

図表2-2-25 回答者数:八王子市国民健康保険464人、協会けんぽ202人、組合健保414人

図表2-2-26 回答者数:183~736人

「健診との同時実施（取組No.12）」の評価

特定健康診査受診券の送付時には、がん検診の案内リーフレットを同封し、がん検診の同時受診を促しました。また、特定健康診査の受診勧奨通知においても、がん検診の同時受診を促しました。さらに、第1期計画取組No.10の評価②(P46)で示したように、健康診査と同時に大腸がん検診を受診した場合には、大腸がん検診の自己負担額を割引しています。

がん検診の受診にあたっての確認事項

安全性を考慮し、当日の心身状態により、医師の判断で受診をお断りすることもありますのでご了承ください。

●八王子市が実施しているがん検診は、研究と検証を通じて、特に早期発見効果が認められており、検診を受けやすい方法(メソッド)が不利な場合と比べて、癌の発生を抑えられた検診です。

がん検診のご案内

八王子市には2件の検診センターがあり、ご自身の住居の最寄りセンター、入居するマンションや学校、入居するビルなど実施機関のいずれが対象です。

がん検診は日常生活の心身の疲労や不調、人間関係などで実施機関のいずれが対象です。

がん検診は、がんの早期発見が目的です。がんの早期発見は、がんの早期発見、がんの早期発見(検診)が効果的であるとされています。がんの早期発見は、がんの早期発見が目的です。がんの早期発見は、がんの早期発見(検診)が効果的であるとされています。

がんの早期発見は、がんの早期発見が目的です。がんの早期発見は、がんの早期発見(検診)が効果的であるとされています。

検診項目	対象年齢	検診回数	検診内容	費用
胃がん内視鏡検診	50歳以上	2年に1回	胃内視鏡検査	2,800円
肺がん検診	40歳以上	年に1回	胸部X線検査	1,000円
大腸がん検診	40歳以上	年に1回	便潜血検査	500円 (現金1,200円)
乳がん検診	20歳以上	2年に1回	乳房X線検査	2,000円
子宮頸がん検診	20歳以上	年に1回	視診、内診、頸部細胞診	1,000円

医療機関に直接予約し、受診してください。

同時実施の特典健康診査のお知らせの医療機関一覧をご確認の上ご予約ください。

予約期間：令和5年5月15日～令和6年1月30日
受診期間：令和5年6月1日～令和6年1月31日

特定健康診査の受診勧奨通知

令和6年1月31日(水)まで

Step1 医療機関を選ぶ
ご希望の医療機関を中からお選びください。がん検診等も同時に受診できます。

Step2 電話で申し込む
医療機関に直接電話でお申し込みください。

10月以降は毎年大定額になります。
受診はお早めにお申し込みください。

特定健康診査に関するお問い合わせ
健康医療部 成人健診課
〒192-8501 八王子市元本町三丁目24番1号

お電話にて
☎042-620-7428
受付時間 | 午前10時～午後5時

お申し込みは、**無料**です。

検診当日の持ち物
①受診券
②保険証

検診時間は？
かかる時間は約**1**時間。

検診費用は？
かかる費用 = **無料**

検診の詳細の申し込み方法は裏面をご覧ください

図表2-2-27 がん検診の案内リーフレット

図表2-2-28 特定健康診査の受診勧奨通知

「成果報酬型官民連携モデルの効果検証（取組No.13）」の評価

平成29年度～令和元年度(2017年度～2019年度)、大腸がん検診をフィールドに、ヘルスケア分野では全国初となる、成果報酬型官民連携モデル(通称「ソーシャル・インパクト・ボンド」で、以下、「SIB」という。)を導入しました。

SIB事業の成果として、大腸がん検診・精密検査受診率の向上を達成することができ、事業全体で市に約39,144千円の医療費適正化効果があったことがわかりました。効果検証の詳細については、市ホームページに公開しています。

八王子市 HACHIOJI CITY

English 한국어 簡体字 繁体字 RSS サイトマップ

文字サイズ 標準 拡大 文字色・背景色 黒 白 音声読み上げ ふりがな

くらしの情報 観光・文化 イベント情報 市政情報 施設案内

現在の場所: [トップ](#) > [くらしの情報](#) > [保健衛生・医療](#) > [健診・検診](#) > ソーシャル・インパクト・ボンド (SIB)導入モデル事業の最終報告書を公開

キーワード

ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)導入モデル事業の最終報告書を公開

更新日: 令和3年1月25日 ページID: P0023983 印刷する

ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)導入モデル事業の実施

八王子市では、大腸がん検診・精密検査受診率向上事業において、ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)導入モデルを実施してきました。ヘルスケア分野、特にがん検診での本事業の取組は、日本初

八王子市

大腸がん検診・精密検査受診率向上事業における ソーシャル・インパクト・ボンド導入モデル 最終報告書

実施結果を踏まえた標準モデルの提案

八王子市
ケイスリー株式会社
株式会社キャンサーズキャン

図表2-2-29 市ホームページでのSIB事業の公開

「かかりつけ医からの働きかけの実施（取組No.14）」の評価

継続受診には、個別通知はもとより、かかりつけ医からのアプローチが効果的です。がん検診の結果説明時には、医師から、定期受診の重要性を説明しています。その他、医療機関内でがん検診を案内するポスターを掲示する等の取組を行いました。

八王子市乳がん検診記録票	
住所	八王子市
フリガナ	
氏名	
生年月日	1 大 2 昭 年 月 日 歳
電話番号	
同意欄	八王子市 管理、記録 保存係 乳がん検診歴 (市検診マンモ) 月 経 現在妊娠中 妊娠歴 現在授乳中 授乳歴 乳房の病気 その他の病気 ホルモン治療 放射線治療 手術 その他 豊胸 ペースメーカー その他 乳がん 家族歴 その他のがん 乳房 自覚 乳頭 症状 いつから
検査結果	1. 現在のと 2. 精密検査
医療機関名	
医師名	
電話番号	

整理番号	1 有料 2 無料 3 クーポン
受診日	令和 年 月 日 通し番号
検診	1. 異常なし 2. 乳房腫瘍(右、左、両側) 3. 顆粒状乳腺(右、左、両側) 4. 結節状乳腺(右、左、両側) 5. 増殖乳腺(右、左、両側)

乳房を意識する生活習慣を心がけましょう。
 ※乳房を意識した習慣を「プレスト・アウェアネス」といいます。

具体的には次の4つのことを行います。

- 1. 自分の普段の乳房の状態を知る**
 入浴や着替えの時など、ちょっとした機会に自分の乳房を見て、触って、普段の状態を知りましょう。
見てチェック!
 両腕を高く持ち上げる
 両腕をまっすぐにする
 両腕を腰に当てる
- 2. 乳房の変化に気をつける**
 乳房がいつもと変わりがなくて気になってみましょう。
 しこり、乳腺のたぐい、乳頭のへこみ、くぼみ、ひきつれ、乳癌からの分泌物
- 3. 変化に気がいたら、すぐ医師に相談する**
 しこりやひきつれなどの変化に気づいたら、次の検診を待つことなく、すぐに専門医の診察を受けましょう。
- 4. 2年に1回乳がん検診を受ける**
 2年に1回、定期的に検診を受けましょう。また、「異常あり」という結果を受けとった場合には、必ず精密検査を受けるようにしましょう。

触ってチェック!
 入浴の際に、石鹸をつけて、指で洗うのもいいでしょう。
 ※特に乳房の外側上部に注意
 そろえた3本の指の腹を使って調べます
 左右の乳頭をつまむと、分泌物が出ていませんか?

図表2-2-30 乳がん検診記録票の裏面(普及啓発)

令和5年度(2023年度) **八王子市がん検診**

対象者 対象年齢で八王子市に住居登録があり、本人や配偶者の勤務先などで受診機会のない方。

生活保護受給者、令和4年度住民税非課税世帯(市に事前申請)の方は無料になります。

当院では、以下のがん検診を実施しています。

- 胃がん内視鏡検診 2,800円**
 対象年齢：50歳以上の方(昭和49年3月31日までに生まれた方)(2年に1回)
- 肺がん検診 1,000円**
 対象年齢：40歳以上(昭和59年3月31日までに生まれた方)
- 大腸がん検診 800円**
 市の健康診査と同時実施の場合 500円
 対象年齢：40歳以上(昭和59年3月31日までに生まれた方)
- 乳がん検診 2,000円**
 対象年齢：40歳以上の女性(昭和59年3月31日までに生まれた方)(2年に1回)
- 子宮頸がん検診 1,000円**
 対象年齢：20歳以上の女性(平成16年3月31日までに生まれた方)

受診期間 **令和6年(2024年)1月末まで**

図表2-2-31 がん検診案内ポスター(医療機関で掲示)

コラム① がん検診受診率向上の取組

ナッジ理論*の活用

市民の皆さんは、がん検診についてどのようなイメージをお持ちでしょうか。おそらく、「受けたほうが良いもの」、「がんの早期発見に役立つ」等の認識を持っていただいていると思います。一方で、八王子市のがん検診受診率を見てみると、5～7割の方は、受診に至っていません(P41～42参照)。つまり、受けたほうがよいことはわかっている、何らかの心理的バイアス*によって、実際に受診しない方が多数いることがわかります。この心理的バイアスに着目したアプローチで行動変容を促すのが、ナッジ理論です。

本市では、前年度大腸がん検診を受診し、結果が「異常なし」だった方については、事前に検査キットをご自宅に送付しています。平成28年度(2016年度)には、大腸がん検診の継続受診を促すため、ナッジのプロスペクト理論(損失回避性)を活用した、受診勧奨通知を送付しました。プロスペクト理論(損失回避性)とは、人は「得る喜び」よりも「失う痛み」を避ける傾向にあるというものです。

パターンAとして「今年度の検診を受けなければ、来年度は検査キットがお送りできません」という、損失を強調したメッセージ、パターンBとして「大腸がん検診を受診することで、来年度も検査キットをお送りします」という利得を強調したメッセージを送付しました。結果はパターンAを送付された人の受診率が29.9%、パターンBを送付された人の受診率は22.7%となり、7.2%もの差がありました。

この取組は、日本版ナッジ・ユニットBEST(事務局は環境省)のコンテストでベストナッジ賞を受賞しています。

図表2-2-32 パターンAの受診勧奨通知

図表2-2-33 パターンBの受診勧奨通知

コラム② 成果連動型委託契約での取組について

成果連動型委託契約とは

成果連動型委託契約(PFS : Pay For Success)は、社会課題の解決に対応した成果指標を設定し、成果指標値の改善状況に連動して委託費等を支払うことにより、より高い成果の創出に向けたインセンティブを民間事業者に強く働かせることが可能となる、官民連携の手法です。また、成果連動型委託契約を実施する際、当該事業に係る資金調達を受託者が金融機関等の資金提供者から行い、その償還を委託元である自治体からの支払額に応じて行われるものをソーシャル・インパクト・ボンド(SIB: Social Impact Bond)といいます。

成果連動型委託契約導入の背景と目的

コラム①のとおり、本市はナッジ理論*を活用した勧奨通知の送付等、様々な受診率向上の取組を実施してきました。それでも行動変容に至らない検診未受診者については、これ以上公費を投入しての介入が難しいところですが、一方で、その方々を放置すると、がんが進行した状態で発見される可能性があります。この課題について、成果連動型委託契約(PFS)を導入し、民間事業者のノウハウ、新しいアプローチによる介入を行うことで、がんの早期発見・治療に結びつけ、死亡率減少や医療費適正化を図ります。

取組①

事業名:大腸がん検診受診率・精密検査受診率向上事業

期 間:平成29年度(2017年度)から令和元年度(2019年度)まで

対象者:検診受診率は40歳～69歳かつ国民健康保険*被保険者で、前年度大腸がん検診の受診歴がない者
精密検査受診率は平成29年度(2017年度)大腸がん検診を受診し、要精密検査になった者

取組②

事業名:令和4年度(2022年度)乳がん検診受診率向上事業

期 間:令和4年度(2022年度)から令和5年度(2023年度)まで

対象者:40歳～69歳の女性かつ国民健康保険被保険者で、過去2年乳がん検診の受診歴がない者

取組③

事業名:令和5年度(2023年度)乳がん検診受診率向上事業

期 間:令和5年度(2023年度)から令和6年度(2024年度)まで

対象者:40歳～69歳の女性かつ国民健康保険被保険者で、過去2年乳がん検診の受診歴がない者

取組②について、次頁のコラムで紹介します。

コラム③ 令和4年度(2022年度)乳がん検診受診率向上事業の取組について

スケジュール

令和4年度(2022年度)に乳がん検診の受診勧奨を行い、翌年度に事業評価を行いました。

	令和4年度(2022年度)	令和5年度(2023年度)
	← 事業実施 →	← 評価期間 →
乳がん検診受診率向上	8月 勧奨 10月 再勧奨	6~8月 成果測定 8月 成果に基づき支払

事業内容

▶ 勧奨通知の送付(令和4年(2022年)8月19日)

従前から、検診費が約12,000円であるところ2,000円の自己負担額で受診できることを発信していますが、1万円の割引券を送付し、割引券を使わないことは自身にとって損失を被るという、損失回避のナッジ理論*を活用しました。

▶ 再勧奨通知の送付(令和4年(2022年)10月28日)

再勧奨通知のデザイン作成にあたっては、対象世代へのインタビュー調査を実施し、なぜ受診行動に至らないのか、どのような情報を伝えたと受診行動に至るのかを分析しました。その結果、世代のがん罹患リスク、がん早期発見のメリット、本市の優れた検診体制等を発信しました。

▶ SMSの送付(令和4年(2022年)8~12月)

AIを活用し、受診確率が高いと想定した月初に、各人2回送付しました。

図表2-2-34 事業スケジュール

成果

検診受診率は目標上限+7.5%に対して、+7.89%を達成し、上限額の10,000千円を支払いました。また、事業実施により試算される医療費適正化効果額は、約20,424千円でした。

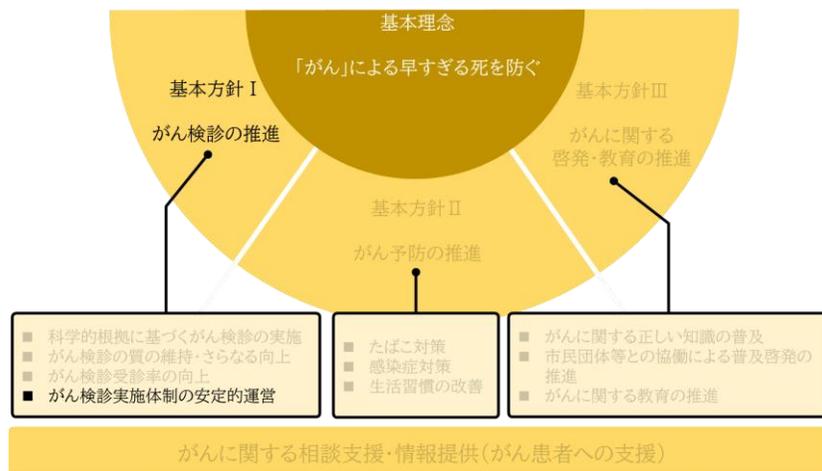


図表2-2-35 乳がん検診の勧奨通知



図表2-2-36 乳がん検診の再勧奨通知

基本方針 I (がん検診の推進)における「がん検診実施体制の安定的運営」の成果



第1期計画で掲げた取組

実施/未実施

評価

第2期計画

No.15

自己負担額・割合の適宜再検討

実施

P57

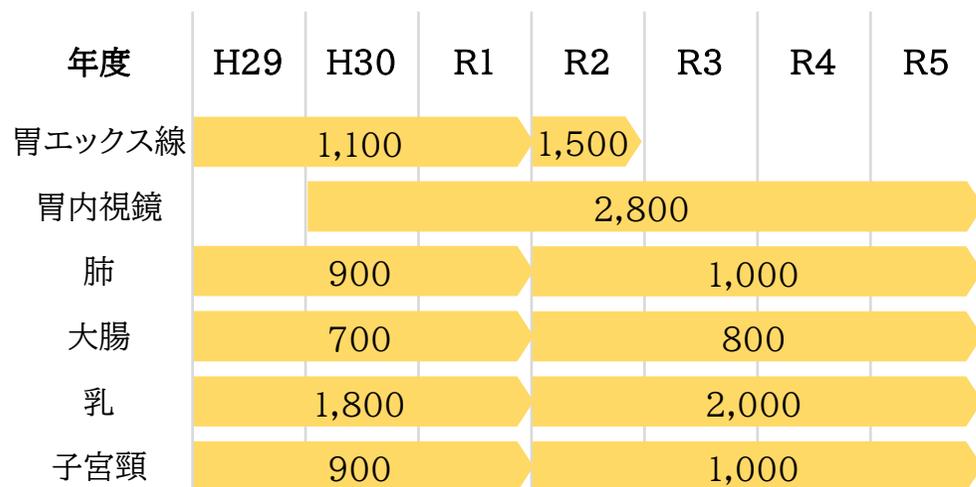
継続

「自己負担額・割合の適宜再検討（取組No.15）」の評価

市民の「自分の健康は自分で守る」意識の醸成、がん検診実施体制の安定的運営のため、検診受診者から一定程度の自己負担額を徴収しています。検診費の算定根拠となる、診療報酬改定等に合わせ、自己負担額・割合の改定を適宜検討し、令和2年度(2020年度)には自己負担額・割合の改定を行いました。

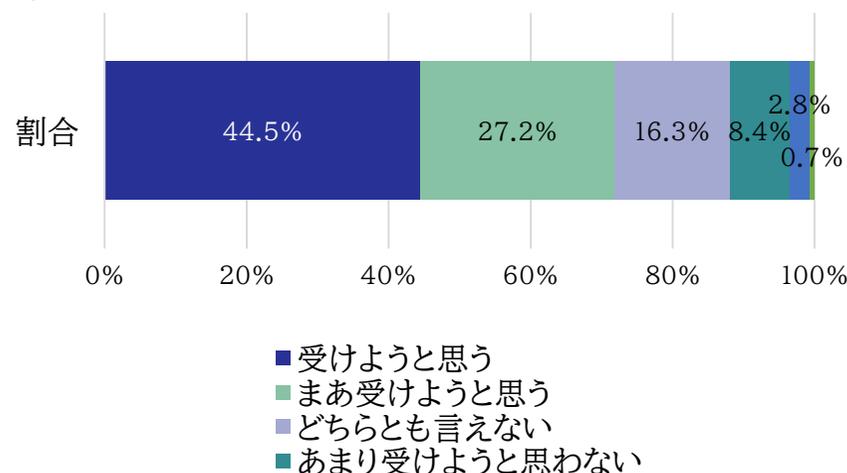
市民意識調査の結果からも、がん検診受診に際し、一定程度の自己負担額を徴収することは、理解を得られていると考えます。

図表2-2-37 がん検診自己負担額の推移(円)

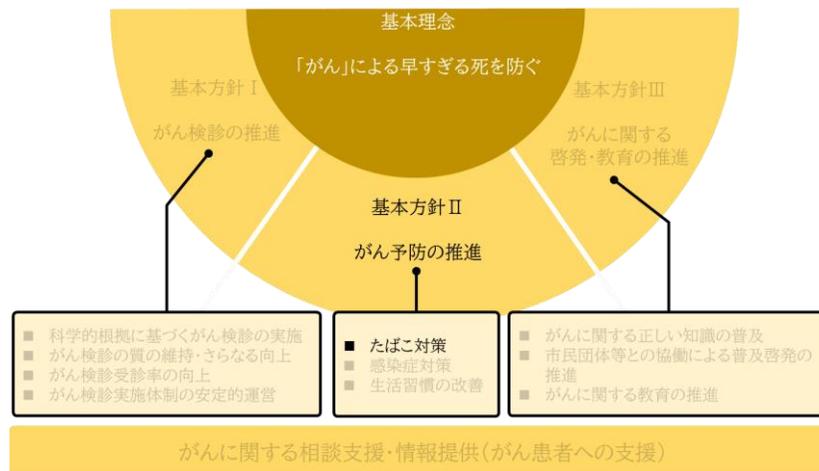


図表2-2-38 がん検診の費用補助による受診意向

問:実質10,000円かかる検診費を2,000円で受けようと思うか。



基本方針Ⅱ(がん予防の推進)における「たばこ対策」の評価



	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.16	肺がん検診時の禁煙外来支援	実施	P59～60	継続
No.17	歯科医、薬剤師からの禁煙支援	実施	P59～60	継続
No.18	ライフステージに応じた受動喫煙・禁煙対策の実施	実施	P59～60	継続
No.19	市民・事業者と協働によるマナーアップキャンペーンの実施	実施	P59～60	継続

たばこ対策全般（取組No.16～19）の評価 ①

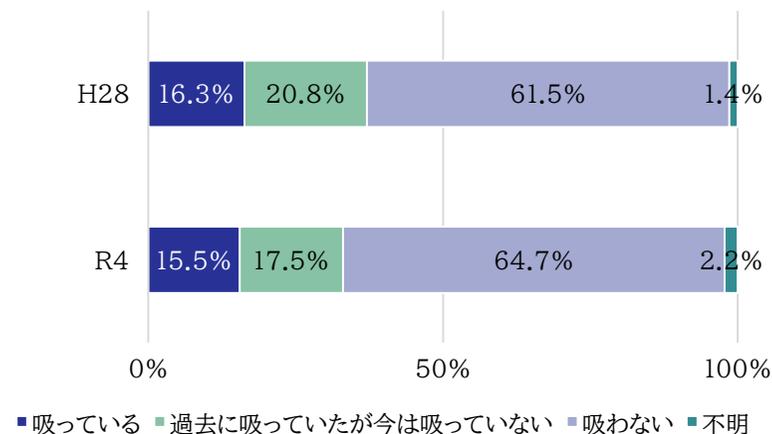
禁煙支援リーフレット及び禁煙外来医療機関マップを、健康診査や肺がん検診の結果説明の際に、医師から受診者へ手渡し、禁煙指導・支援を実施したほか、学校薬剤師と連携した喫煙防止教育を一部の学校で行いました。（取組No.16,17）

また、喫煙・受動喫煙による健康影響について、3～4か月児健診で周知を行ったほか、青少年育成指導員のパトロールや喫煙マナーアップキャンペーンを実施して、禁煙対策を行いました。（取組No.18,19）

図表2-2-39 各健診・検診受診者における喫煙率

	H30	R1	R2	R3	R4
特定健診	12.3%	12.0%	12.0%	11.7%	12.2%
後期高齢者健診	4.7%	4.8%	4.6%	4.5%	4.6%
一般健診	22.1%	21.7%	20.4%	20.5%	20.1%
肺がん検診	12.8%	12.3%	12.0%	11.6%	11.6%

図表2-2-40 喫煙状況



図表2-2-40は、平成28年度(2016年度)、令和4年度(2022年度)市民意識調査から作成
 回答者数:H28 2,357人、R4 2,660人

たばこ対策全般 (取組No.16~19)の評価 ②

禁煙をはじめようと思ったら...

選択肢1
自分で試してみる!

周りに禁煙宣言!
口さみしい時には、低カロリーの食べ物や、お茶などで乗り切りましょう

選択肢2
禁煙外来を受診する ~気軽に受診していいです~

令和2年(2020年)4月1日~
改正健康増進法、東京都受動喫煙防止条例の施行

特定の場所以外での **喫煙が禁止**されます

次の施設では、**敷地内禁煙**になります

- 幼稚園、小学校、中学校、保育所など
- 大学、児童福祉施設など
- 病院、行政機関の庁舎など

次の施設では、**原則屋内禁煙**になります

- 宿泊施設 (客室は含まない)
- 飲食店
- 百貨店、美容院、娯楽施設、事務所など、その他多数の人が利用する施設

※ 2・3は、要件を満たす特定屋外喫煙場所での喫煙が可能です。
 ※ 飲食店は客席面積や規模や条件により店内の喫煙環境が異なります。

受動喫煙対策に関すること TEL 042-645-5117
 八王子市健康部健康政策課 Fax 042-644-9100

吸う場所が減り、
たばこも値上がりする時代、
いつまでたばこを吸い続けますか...

禁煙するなら、今がおすすりめ! 詳細は裏面へ

八王子市 禁煙外来 実施医療機関マップ

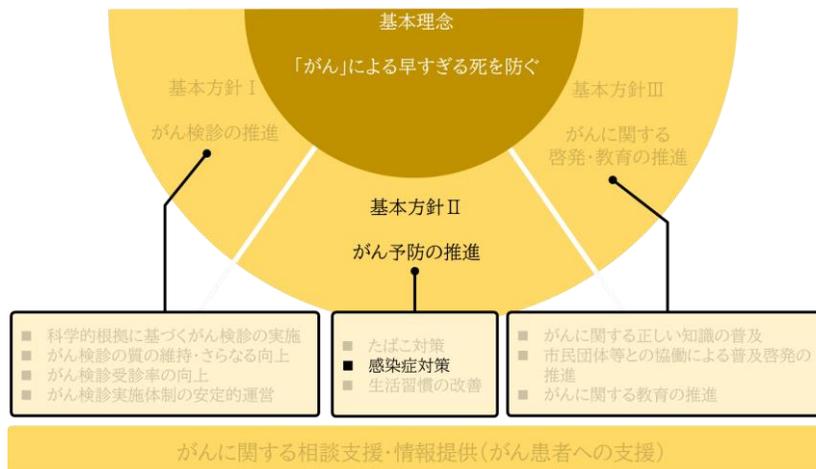
エリア	医療機関	電話番号	
みなみ野エリア	みなみ野レディースクリニック	632-8044	
	富士内科みなみのクリニック	635-6711	
	みなみ野外科・整形外科	632-5855	
	みなみ野産婦人科	637-9101	
	古谷医院	632-6866	
	みなみ野レディースクリニック	632-5500	
	小井内科クリニック	669-0067	
	加藤医院	632-7950	
	小宮エリア	田島医院	691-7550
	八王子駅前エリア	梅原内科クリニック	623-3238
大生医院		622-4769	
八王子南産科クリニック		620-3580	
おおしま内科医院		620-7755	
おなかクリニック		644-1127	
に和会総合病院		644-3711	
東京都立病院附属産科クリニック		656-0075	
伊藤内科クリニック		644-2770	
伊藤内科クリニック		644-2770	
エヌ・エスクリニック		648-5455	
西八王子エリア	あさみ内科クリニック	625-5661	
	わかばやし内科クリニック	622-0650	
	大塚内科クリニック	667-3488	
	山崎内科クリニック	663-3663	
めじろ台・高尾エリア	永生クリニック	661-7780	
	めじろ台西産科クリニック	667-8001	
	めじろ台内科医院	663-0688	
	田中医院	665-0221	
	てんじん内科外科クリニック	632-8751	
	はざま内科クリニック	668-3500	
	永生クリニック	661-7780	

60

図表2-2-41 禁煙支援リーフレット

図表2-2-42 禁煙外来医療機関マップ

基本方針Ⅱ(がん予防の推進)における「感染症対策」の評価



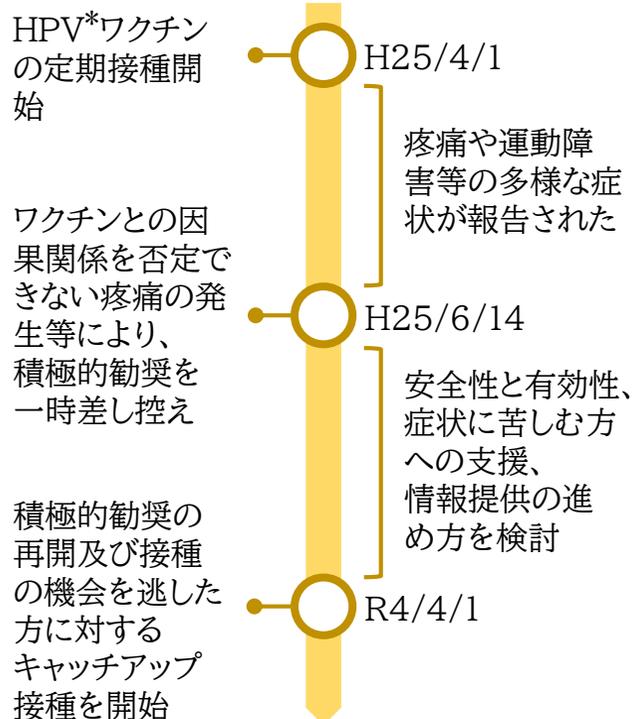
	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.20	がん発症関連ウイルス対策の情報発信	実施	P62	継続
No.21	肝炎ウイルス*検診の実施	実施	P62	継続

感染症対策全般（取組No.20,21）の評価

子宮頸がんの発症リスクとワクチン接種の有用性を周知啓発したほか、子宮頸がんワクチン予防接種のお知らせを送付するとともに、令和4年度(2022年度)からはキャッチアップ接種※1を行っています。(取組No.20)

また、肝炎ウイルス*検診の受診者数は、検診ガイド、受診勧奨通知、無料クーポン券等を活用した情報発信により、着実に増えています。(取組No.21)

子宮頸がんワクチンに関するこれまでの経緯



図表2-2-43 子宮頸がんワクチン接種率の推移

	H30	R1	R2	R3	R4	R4 キャッチ アップ
延接種者数 (人)	33	126	990	2,517	2,561	3,267
対象者数 (人)	7,068	7,239	7,176	7,011	6,921	23,547
接種率(%)	0.5	1.7	13.8	35.9	37.0	13.9

対象者数は、接種対象者に送付した勧奨通知の累積件数

図表2-2-44 肝炎ウイルス検診の受診者数

	H30	R1	R2	R3	R4
受診者数(人)	2,541	2,375	2,120	2,175	1,810

令和4年度末現在、85,402名受診済み

※1 キャッチアップ接種は、積極的勧奨が差し控えられていた期間に定期接種の期間が過ぎてしまった方への接種。

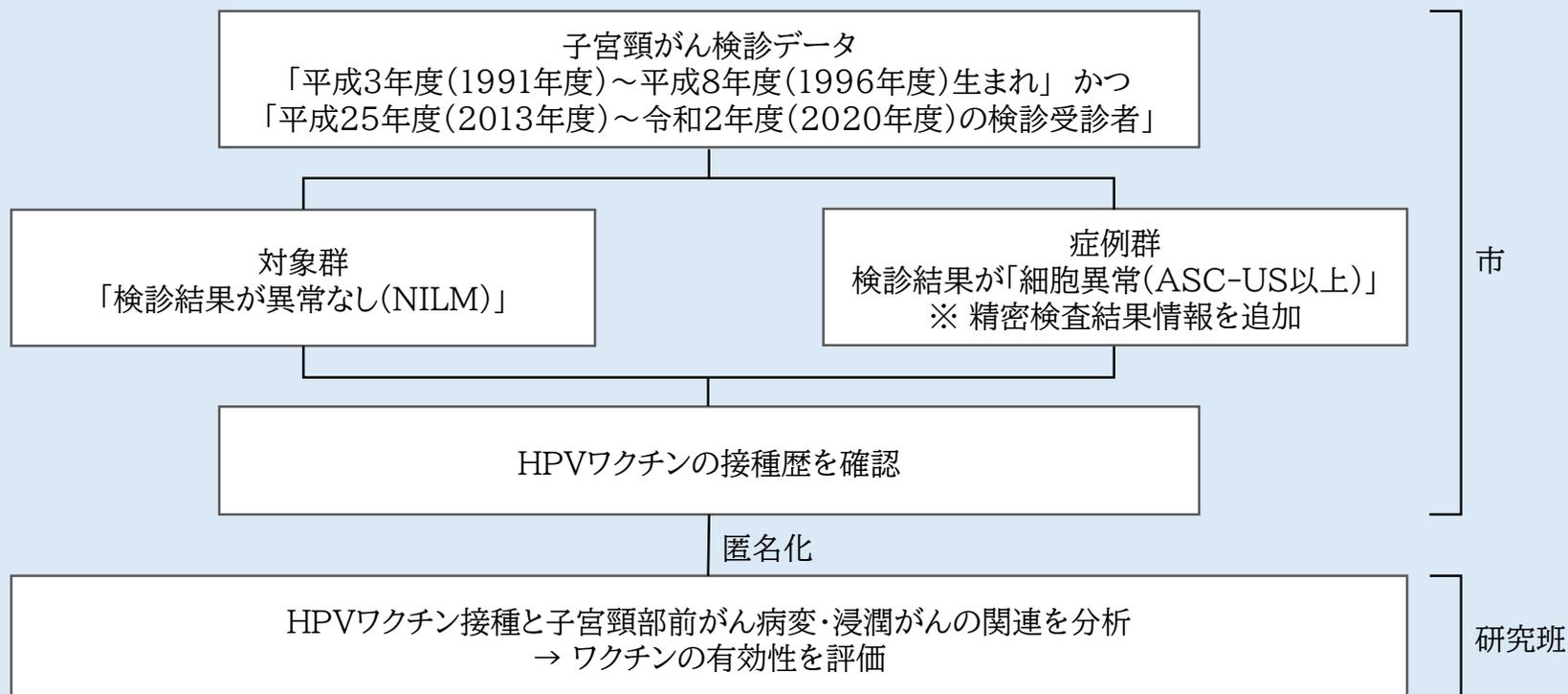
コラム④ HPV*ワクチンに係る大規模疫学研究への協力について

研究の概要

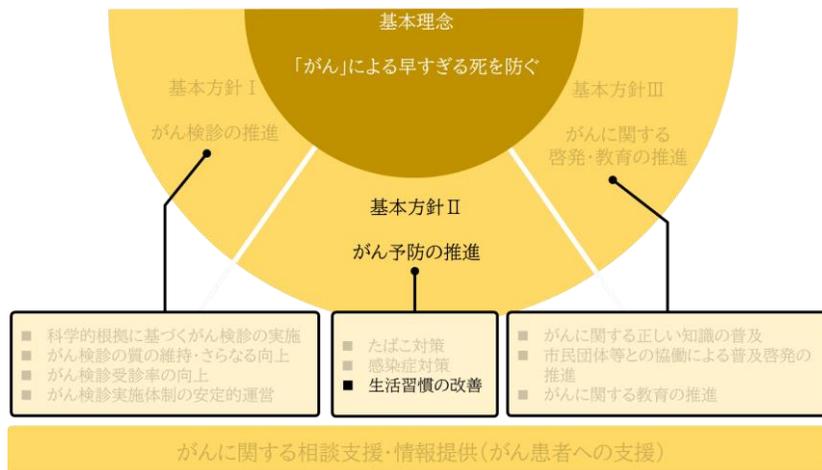
令和4年度(2022年度)、本市は、大阪大学・佐賀大学・新潟大学が共同で実施する、HPVワクチンの有効性と安全性のための大規模疫学研究「子宮頸がん検診結果とヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン接種歴の記録照合によるHPVワクチンの有効性調査」(国立研究開発法人日本医療研究開発機構の委託事業 / 研究代表者:新潟大学医学部産婦人科婦人科教室 榎本隆之)に協力しました。

本研究は、自治体の子宮頸がん検診受診者をHPVワクチン接種、非接種に分け、検診・精密検査の結果からHPVワクチン接種の有効性を評価するもの(以下フロー参照)で、全国で37の自治体が参加しています。

今後、研究班から、研究結果の報告があった際には、市ホームページ等にて、周知します。



基本方針Ⅱ(がん予防の推進)における「生活習慣の改善」の評価



	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.22	規則正しい食生活の推進	実施	P65	継続
No.23	運動習慣の普及	実施	P65～66	継続
No.24	飲酒に対する正しい知識の普及啓発	実施	P65～66	継続

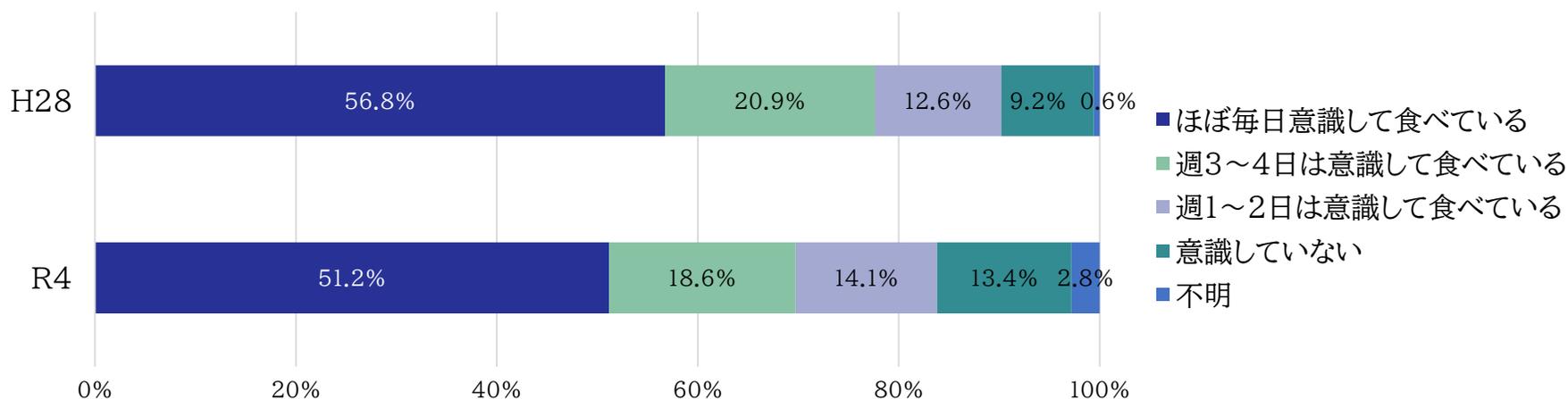
生活習慣の改善全般（取組No.22～24）の評価 ①

規則正しい食生活の推進では、イベントや市民講座で食育・健康に関する情報発信をしたほか、各小・中学校で食育の推進を行いました。（取組No.22）

また、運動習慣の普及では、イベント等で運動に関する情報発信、体力測定を実施したほか、民間企業と連携したウォーキングマップの配布を行いました。（取組No.23）

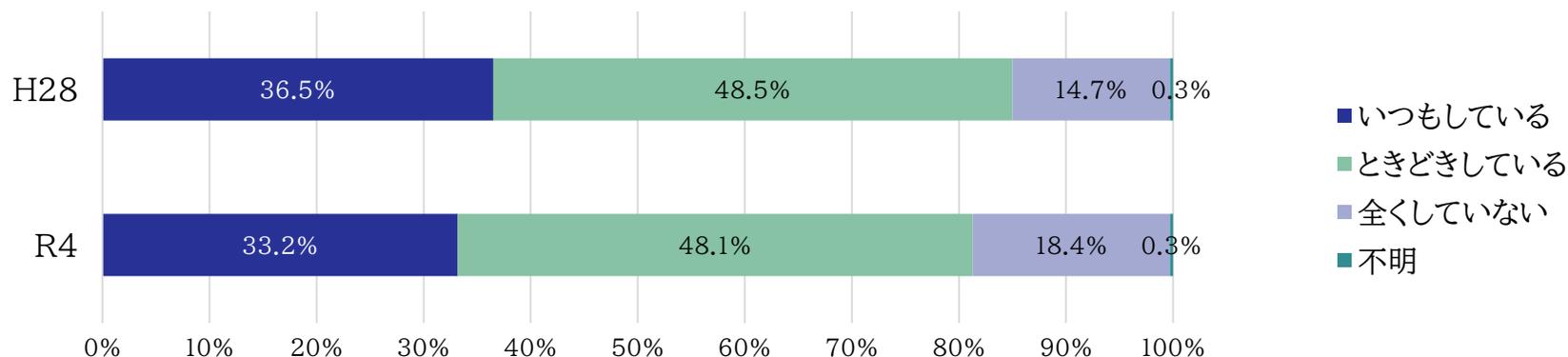
さらに、飲酒に対する正しい知識の普及啓発では、青少年育成指導員のパトロールや「健全育成協力店」の協力により、未成年者の飲酒防止・抑制を図るとともに、アルコールの健康被害に関する授業を各小・中学校で実施しました。（取組No.24）

図表2-2-45 市民の野菜の摂取状況

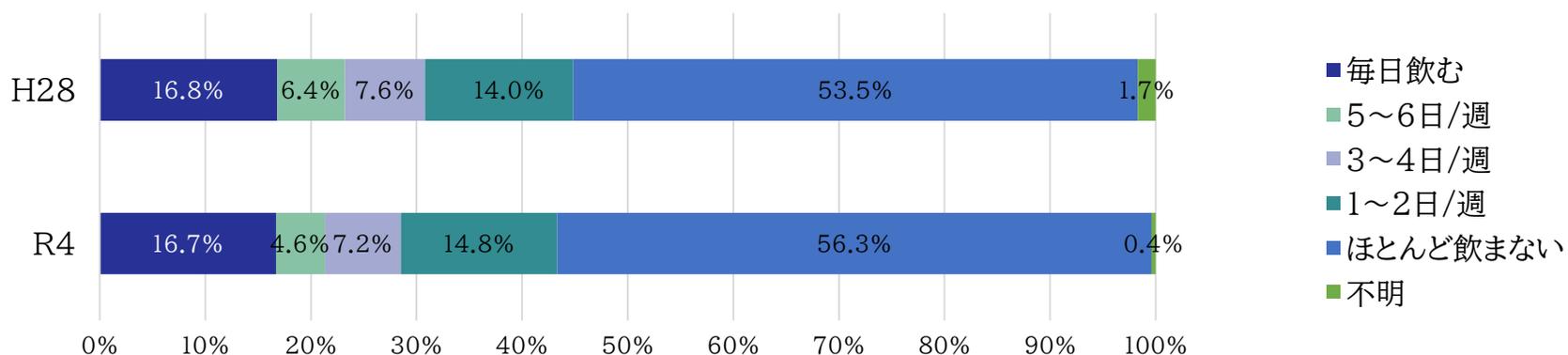


生活習慣の改善全般（取組No.22～24）の評価 ②

図表2-2-46 市民が健康のために意識的に体を動かす頻度の状況



図表2-2-47 市民の飲酒頻度の状況

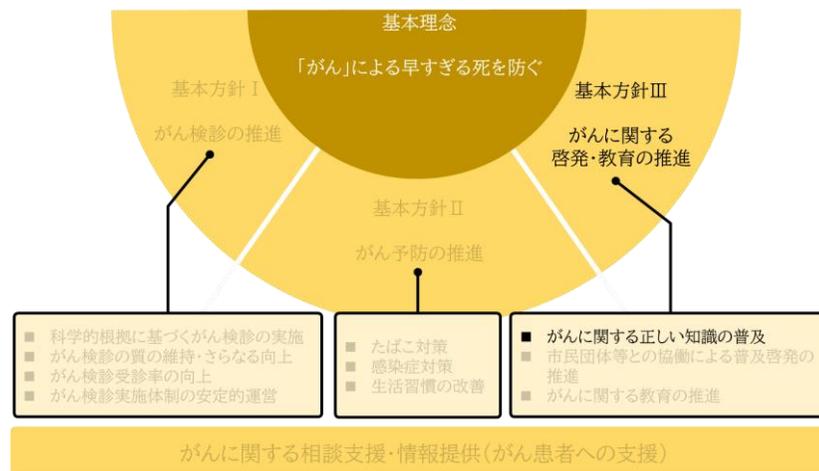


両グラフは、平成28年度(2016年度)、令和4年度(2022年度)市民意識調査から作成

図表2-2-46 回答者数:H28 2,357人、R4 2,660人

図表2-2-47 回答者数:H28 2,357人、R4 2,595人

基本方針Ⅲ(がんに関する啓発・教育の推進)における「がんに関する正しい知識の普及」の評価



	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.25	ホームページの充実	実施	P68	継続
No.26	SNSを活用した情報発信	実施	P68	継続
No.27	母子保健事業での普及啓発	実施	P68	継続

がんに関する正しい知識の普及全般(取組No.25～27)における評価

市ホームページに各種がん検診に関する様々なリーフレットを公開しているほか、国・東京都・国立がん研究センター等のホームページリンクを貼ることにより、普及啓発に努めました。(取組No.25)
 また、市SNS(Facebook等)を活用した情報発信を行いました。(取組No.26)
 さらに、各保健センターで実施している乳幼児健診等で保護者に対して、乳がんモデルやリーフレット等を活用してがん検診の受診勧奨を行いました。(取組No.27)

図表2-2-48 各種がん検診リーフレット(大腸がん)

これから受ける検査のこと
大腸がん検診

大腸がんについて

- わが国では罹患する人が増加しており、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 検診を受けることでがんによる死亡リスクが減少します。
- 検診は毎年定期的に受けてください。ただし、血便、腹痛、便の性状や回数に変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たず、速やかに医療機関を受診してください。
- 検診で「便潜血陽性(要精密検査)」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
- 精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。
- 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけられない場合もあります。
- 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。[※]

メリット? 精密検査? 便潜血検査? デメリット?

手検出する検査です。便を採取します。がん大腸病変がある大腸がんの早期発見を目的です。(通常は健康診断)

「要精密検査」の結果ならば必ず再検査が必要となります。「症状」など自己判断せず、必ず精密検査を受ける検査方法が有効です。

第一選択は全大腸内視鏡検査です。肛門から内視鏡を挿入し、がんやポリープを撮影し、がんやポリープを摘出します。必要に応じておこなう精密検査も、この検査方法が有効です。

精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。肛門から内視鏡を挿入し、がんやポリープを撮影し、がんやポリープを摘出します。必要に応じておこなう精密検査も、この検査方法が有効です。

大腸がん検診に関するお問い合わせ先
八王子市健康医療部成人健診課
〒192-8501 八王子市元本郷四丁目24番1号
電話:042-620-7428
ファックス:042-621-0279

国立がん研究センター
がん対策推進センター がん検診推進部 検診企画推進課
国立がん研究センターがん検診推進部 検診企画推進課
がん検診に関するお問い合わせ先

定期的を受診してください。

治療 次回の検診

ポリープが見つかった際には状態(大きさや、数)によって治療を行う場合もあります。検診ポリープなどは治療せずに次回の検診に通り場合もあります。

検診は40歳以上、毎年定期的に受けることが大切です。大腸がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず毎年、定期的に検診を受けてください。血便、腹痛、便の性状や回数に変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たず、速やかに医療機関を受診してください。

図表2-2-49 こんにちは赤ちゃんでの啓発ページ

2022年度
マチレット

こんにちは赤ちゃん
～親子の健康ガイド～

八王子市
大橋保健福祉センター 東横川保健福祉センター 南大沢保健福祉センター

ご家族の健康

ママへ
子宮頸がんはあなたの歳でもかかると知っていますか?

特に20代～40代で急増しています。

定期的な検診による早期発見により、90%以上完治します。

年齢別別子宫颈癌になる人の数

八王子市では20歳以上の女性に子宮頸がん検診を実施しています。定期検診に子宮頸がんのリスクがない方はぜひ受診してください。

日本女性の9人に1人が乳がんにかかるか知っていますか?

乳がんは40-50代の女性の**がん死亡数第1位**です。

早期発見による5年生存率は**99.8%**です。

八王子市では**40歳以上**の女性を対象に乳がん検診を実施しています。早期に発見するためには、**2年に1度検診**を受けることが大切です。

がん検診に関する詳しい情報はホームページでご確認ください。

治療後の5年生存率は

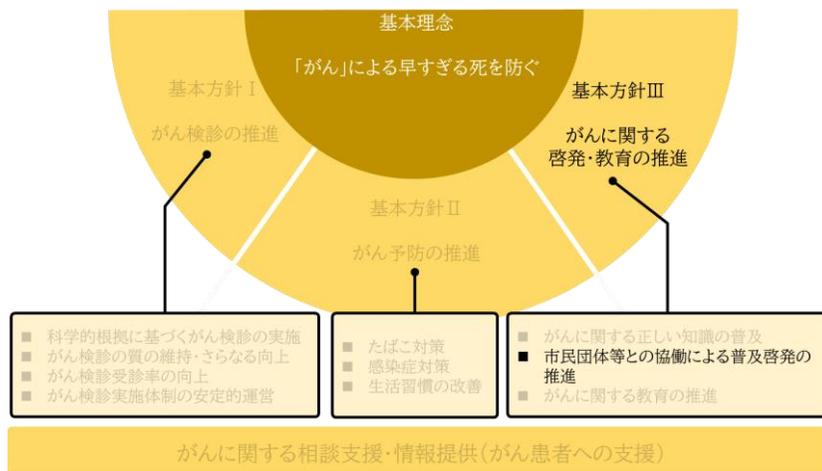
- I期(早期)………99.8%
- II期………95.7%
- III期………80.6%
- IV期………35.4%

がん検診に関するお問い合わせ先… 成人健診課(成人検診・がん検診担当)
☎042-620-7425 FAX 042-621-0279

第2章 がんを取り巻く状況とこれまでの取組の評価

2. 第1期がん対策推進計画の評価 (3) がんに関する啓発・教育の推進

基本方針Ⅲ(がんに関する啓発・教育の推進)における「市民団体等との協働による普及啓発の推進」の評価



	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.28	健康づくりサポーター・市民団体との協働	実施	P70	継続
No.29	健康フェスタ等イベントでの啓発	実施	P70	継続

市民団体等との協働による普及啓発の推進全般(取組No.28,29)における評価

はちおうじ健康づくり推進協議会とともに、ワークショップを開催したほか、健康フェスタ・食育フェスタを通じて健康づくりについての普及啓発を行いました。(取組No.28)

また、健康フェスタ・食育フェスタで大腸トンネルを出展し大腸がん検診の重要性を訴えるとともに、10月の乳がん月間には清掃車へピンクリボンキャンペーンのラッピングを行いました。(取組No.29)

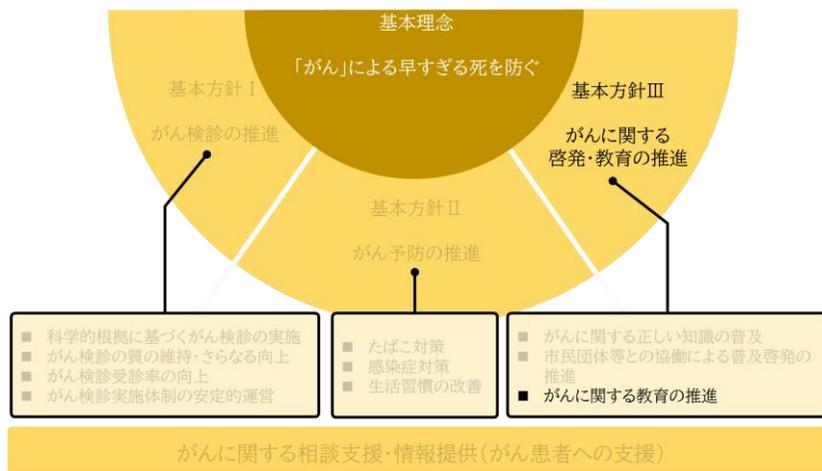


図表2-2-50 健康フェスタ・食育フェスタでの出展風景



図表2-2-51 ピンクリボンキャンペーンのラッピング

基本方針Ⅲ(がんに関する啓発・教育の推進)における「がんに関する教育の推進」の評価



	第1期計画で掲げた取組	実施/未実施	評価	第2期計画
No.30	小・中学校でのがん教育の実施	実施	P72	継続
No.31	専門家・がん経験者によるがん教育の実施	実施	P72	継続
No.32	高校生・大学生等への子宮頸がん対策及び啓発の実施	実施	P72	継続
No.33	家庭でのがんについて考える機会の提供	実施	P72	継続

がんに関する教育の推進全般(取組No.30～33)における評価

小・中学校でがん予防等について取り扱い、がんについての知識を教えるとともに、中学校全校で医師によるがん教育の授業を行いました。(取組No.30,31)

また、市内大学の看護学生に対しては、八王子市医師会と連携し、がんを含めた婦人科系疾患の正しい知識、予防の重要性を伝達するための講義を実施しました。(取組No.32)

さらに、がん教育やがん予防についての資料を学校を通して家庭へ提供し、がんに関する意識向上を図りました。(取組No.33)

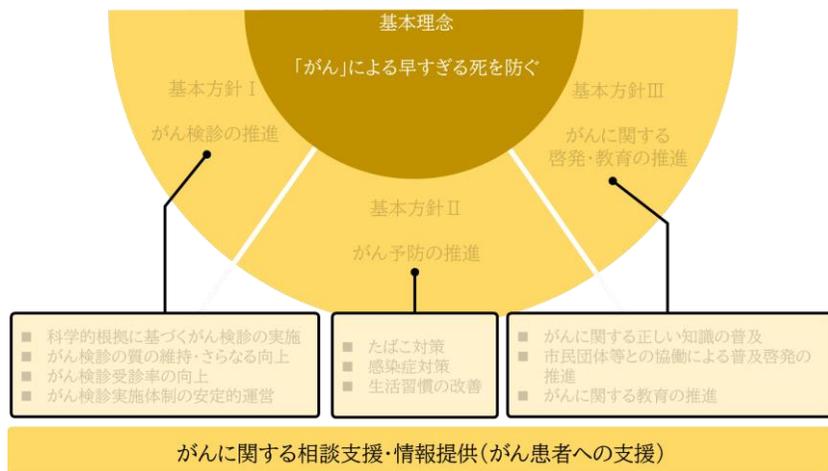


図表2-2-52 市内中学生へのがん教育の様子



図表2-2-53 市内大学における学生への講義の様子

「がんに関する相談支援・情報提供(がん患者への支援)」の評価①



検診ガイドや市広報等を活用して、がん相談支援センター*の周知を行うとともに、がんと診断された方への支援・サービスをまとめたリーフレットを作成してホームページ・窓口で周知・配布しました。さらに、令和4年度(2022年度)からは、市内がん診療連携拠点病院*である、東京医科大学八王子医療センター、東海大学医学部付属八王子病院との共催により、がんに関する知識についての講演会・がん相談支援センターによる出張相談会を行いました。

がん相談支援センターを知っていますか?

もし、自分や大切な家族が「がん」と診断されても決してあわてないでください。
がん相談支援センターでは、どんなことでも相談することができます。
また、あなたに必要な情報を相談員と一緒に探すことができます。

どこにあるの?
八王子市内では、東京医科大学八王子医療センターと東海大学医学部付属八王子病院に設置されています。

何を相談できるの?
治療・お金・仕事・生活のことなど、あらゆる不安・疑問について、ソーシャルワーカーや看護師等がお話をうかがいます。

誰が相談できるの?
本人、家族、その病院に通院していない人も利用できます。相談は無料です。

どうやって相談するの?
まずはお電話にてご連絡ください。

東京医科大学八王子医療センター
住所：八王子市館町1163
電話：042-665-5611 (代表)
時間：平日9～16時

東海大学医学部付属八王子病院
住所：八王子市石川町1838
電話：042-639-1111 (代表)
時間：平日9～16時、第2・4・5土曜9～14時

図表2-2-54 検診ガイドにおけるがん相談支援センターのコラム

「がんに関する相談支援・情報提供(がん患者への支援)」の評価 ②



お仕事の相談をしたい方へ(就労サポート)

療養中の就労をサポート
八王子労働基準監督署 ☎680-8752
八王子労働基準センター ☎680-8785

労働相談
八王子労働基準監督署 ☎680-8752
八王子労働基準センター ☎680-8785

職業紹介・相談・各種セミナー
八王子労働基準センター ☎656-4788
八王子労働基準センター ☎656-4788
ハローワーク八王子 ☎648-8609
東京しごとセンター多摩 ☎042-526-4510

多摩職業能力開発センター ☎622-8201

様々な悩みの相談をしたい方へ(こころのサポート)

こころの健康相談
保健対策課 ☎645-5196

女性のための相談・カウンセリング
男女共同参画センター ☎648-2234

八王子市 がんと診断された方への支援・手当・サービス等一覧

身体障害者手帳
障害者福祉課 ☎620-7367

がん診療連携拠点病院における支援
八王子市 がん診療連携拠点病院 ☎665-5611

在宅医療相談窓口
八王子市 在宅医療相談窓口 ☎622-1239

お子さんの保育等が必要な方へ(子育てサポート)

一時保育
子どもの教育・保育推進課 ☎620-7447

緊急保育
子どもの教育・保育推進課 ☎620-7447

休日保育
子どもの教育・保育推進課 ☎620-7447

子どもと家庭に関する総合相談
子どもの教育・保育推進課 ☎656-8225

74 図表2-2-55 がんに関する知識についての講演会の様子

図表2-2-56 がんと診断された方への支援・手当・サービス一覧